

資料紹介

モンゴル人の日記のなかの中国文化大革命(2)

楊 海 英

静岡大学人文学部『人文論集』第58号の2において、私はあるモンゴル人作家が1967年に書いた日記を公表した。中国の文化大革命が発動された二年目に、一モンゴル族知識人がどのように政治運動に関わっていたかを表す資料であると紹介した(楊 2008a: 43-70)。

今回は同じ作家の1968年分の日記を取り上げる。日記の大きさは13.0cm×17.8cmで、硬く、赤い紙製のカバーのついた冊子である。表紙に「学習最高指示、執行最高指示、宣伝最高指示、捍衛最高指示」という副統帥林彪の言葉が印刷してある。冊子は1967年2月に北京市印刷公司監製の下で、北京製本廠が作ったものである。以下、日記の内容上の特徴について、簡単にまとめておきたい。

1. 大虐殺の投影

まず、日記が書かれた当時の内モンゴル自治区の状況を振り返ってみよう。

1967年11月、毛澤東の夫人江青は北京の文芸界において講話を発表し、文芸界の「反動的な黒い路線を一掃しよう」と「階級の隊伍の整理」を呼びかけている。毛澤東夫人の講話を受けて、内モンゴル自治区の最高権力者となっていた滕海清将軍は11月24日に自治区宣伝部の副部長トグスを「つまみ出した」(高樹華、程鉄軍 2007: 289-291; 図們、祝東力 1995: 171-175)。ここから、「ウラーンフの黒い路線をえぐり出し、ウラーンフの毒害を一掃する」(挖烏蘭夫黒線、肅烏蘭夫流毒)運動が正式にスタートし、モンゴル人を対象とした民族の大虐殺(ジェノサイド)が始まる。翌1968年の1月6日から18日にかけて行われた内モンゴル自治区革命委員会第二回全体委員拡大会議において、運動は正式に政府によって追認される。内モンゴル各地で共産党政府と漢人主導の血腥い殺戮が横行するが、作家の日記からもその一端を伺い知ることができる。

作家は1月3日の日記のなかで、「反革命修正主義分子で、民族分裂主義者た

るウラーンフの残党を一掃する政治運動を支持する」、との立場を明らかにしている。ウラーンフは「革命の紅色政権内に潜り込んだ最も危険な敵だ」と批判している。そして、自らが六年間も暮らしたアラシャン地域は軍事戦略上重要な場所であり、アラシャンが中国に編入されるプロセスのなかで複雑な歴史が繰り返されたために、きっとウラーンフの「黒い手先」らが大量潜んでいるに違いないと見ている。

2月8日、造反派たちが推進する「ウラーンフの残党をつまみ出す」運動に作家は参加した。3月10日になると、アラシャン左旗全体で「ウラーンフの残党を批判闘争する大会」が開かれた。作家は「ウラーンフをつまみ出す赤い旗」を立て、「前進の号令」を発した毛澤東を称賛している。冬の11月10日には、「ウラーンフをつまみ出す連絡センター」の戦士たちが「ソ連修正主義のスパイ」たる人物を二人、「えぐり出した」と書いている。11月30日には更にアラシャン左旗の副書記のトブ（図布）が「人民群衆」によって「打倒」された、と伝えている。これらの行動は「民族分裂主義者に歴史が下した死刑だ」、と結論付けている。

やがて群衆同士の武闘が激しくなり（6月6日の日記）、物資不足も深刻化している模様（6月26日）が伝わってくる。それでも、作家は物質的な生活は困窮していても、精神生活は充実している、と自白している。

文化大革命中の殺戮のなかで、アラシャン地域でも多くのモンゴル人たちが犠牲となっている。しかし、どのような殺戮が行われたかについては、作家の日記内には記録がない。それは、作家が殺戮の事実を知らなかったことを決して意味していない。知っていても、書けなかったからだろう。日記はあくまでも「党に心^{わた}を交す」為の道具であり、いつでも検閲に備えていなければならなかったからである。

2. ビラと「毒草」

日記の書き手は作家であるがゆえに、内モンゴル自治区文芸界の動向に敏感に反応している。1月12日の日記では、自治区内の「錚々たる作家や詩人ら」が「倒された」ことに触れている。自治区の首府フフホト市から遠く離れたアラシャンに身を置く作家は、同窓生たちが送ってくるビラ類から文芸界の最新情報を得ていた、と書いている。文化大革命中は、さまざまな群衆組織が色とりどりのビラを印刷して配り、自分たちの主義主張を広げていた（鄭 2006）。内モンゴル自治区も当然、例外ではなかった。

10月11日、作家は『茫茫の草原』という小説を「疑うようになった」と記している。疑いの目で見始めると、その小説のなかの「弊害」も見えてきて、小説は「毒草」であることが分かった、という。『茫茫の草原』はモンゴル人作家マルチンフーの作品である。文化大革命中は、中国全土における「六十の有毒小説」の一つにカウントされていた。「青いモンゴルを復興させ、祖先たちの馬蹄のようにユーラシアを震撼させよう」というような台詞が小説のなかにあり、「反動的な民族主義の毒草」である、と批判されていた（内蒙古哲里木第三司令部 1968：38）。

作家は9月23日の日記のなかで、『草原烽火』という小説にも「問題がある」、と指摘している。『草原烽火』はモンゴル人作家ウラーンバガナの作品である。1959年9月に中国語版がまず出され、二年後にはモンゴル語版も上梓されている（烏蘭巴幹 1992）。中国全土で流行った小説である。ウラーンバガナは1968年の時点で熱心に「ウラーンフの黒い路線をえぐり出し、ウラーンフの毒害を一掃する」（挖肅）運動に参加していたとされているが（高樹華、程鉄軍 2007：294；図們、祝東力 1995：51－57）、時々批判されることもあった。作家の見方もそうした時勢を反映しているのであろう。

3. 大寨への旅、そして内モンゴル自治区の分割

1967年11月26日に、作家は山西省の大寨に見学に行くことになっていたが、アラシャンを襲った大雪で実現できなかった（楊 2008a：69）。1968年2月23日に、大寨見学は再度認められた。作家を含むアラシャンの見学者たちは2月24日に出発して大寨を訪れ、3月8日にアラシャンに戻っている。大寨とは、中国共産党が巨額の資金を投じて創り上げた「社会主義人民公社の模範」だった。極貧の山岳地帯を改良して収穫高を挙げた、と宣伝されていたが、実際はほとんどが水増しだったものである（宋連生 2005）。作家は帰りに北京に立ち寄り、天安門広場で毛澤東の肖像画を眺めて感動の涙を流した、という。

作家はアラシャンへ帰る途中に寧夏回族自治区の首府銀川を経由している。ここで、作家は「将来内モンゴル自治区のアラシャン左旗は寧夏自治区に割譲される」、という情報を入手している。現在の公式見解では、1969年7月5日に中国共産党中央委員会が正式に内モンゴル自治区の領土アラシャン地域の一部を寧夏回族自治区に分け与えたことになっている（郝維民 2000：684）。毛澤東の中国共産党はソ連との一戦を想定していた。そして、いざ「修正主義国家」の軍隊が攻めてきた時に供えて、「信用できないモンゴル人たち」の肅清を断行

した(楊 2008b:25)。肅清するだけでなく、モンゴル人の故郷を隣接する省に分け与えることで、勢力を弱めようとの計画で実施されたものである(地図1, 2)。

もし、作家が伝える情報が真実であるならば、内モンゴルの分割は実行に移される1年も前から計画されていたことになる。少数民族を「分けて統治する」政策の実態である。

4. 帰郷と毛澤東への「愛」

6年間もアラシャン地域に流されていた作家は、家族愛よりも祖国愛、故郷愛よりも世界愛を目指そう、と自分に言い聞かせるように書いている。それでも、望郷の念は抑えきれずに、4月14日から6月4日まで、内モンゴル東部にある故郷に帰っている。

作家は「煙灯吐」という駅で下車し、通遼第二中学で学んだことを回想している。こうした内容から、作家はホルチン左翼中旗の出身である、と特定できよう。通遼市から大慶市に通じる鉄道に今も「煙灯吐」という駅がある。作家は「搾取階級」の「地主」の出身である(11月9日の日記)。ホルチン地域でも凄まじい虐殺が行われていたが(阿拉騰徳力海 n.d.:86)、作家の日記にはジェノサイドの実情が反映されていない。

作家は昨年と同様に、国際情勢を注視している。8月22日と23日にソ連軍がチェコスロヴァキアに侵攻したことに触れている。1960年代に入ってから、経済状況が悪化し、民主化・自由化を求める運動がチェコスロヴァキアの各地で始まっていた。共産党主導による政治経済の改革がスタートしようとしていた頃に、ソ連が率いるワルシャワ条約機構軍の介入で挫折する。「ブハラ春」から端を発した「チェコスロヴァキア事件」である。中国は社会主義陣営における自らの立場を有利に展開しようと「ソ連修正主義」に対する批判を強めていた。モンゴル人作家も中国の官製のメディアから情報を得ていただろう。

嘘か本当か分らないが、作家は12月30日に毛澤東の夢を見た、と告白している。親切な毛澤東は質素な生活を送り、モンゴル人の青年に野菜をプレゼントした、との夢である。実際の毛澤東は中国各地で豪華な別荘を有し、いつも若い女性を侍らせていた事実(李 1996:55-69)を作家は知らなかった。中国人民も知らなかった。

備考：

本研究は科研費「モンゴル族からみた中国文化大革命の実証研究」（基盤研究C 大野旭（楊海英）代表）の成果の一部である。記して関係各位に感謝申し上げたい。漢文日記のテキストを中国中央民族大学蒙古語言文学系博士課程の永花さんが入力してくれた。心から御礼申し上げる。

参考文献

阿拉騰徳力海

出版年不明 『内蒙古挖肅災難実録』。

烏蘭巴幹

1992 『草原烽火』南京：江蘇文芸出版社。

郝維民

2000 『百年風雲内蒙古』呼和浩特：内蒙古教育出版社。

高樹華 程鉄軍

2007 『内蒙文革風雷』香港：明鏡出版社。

宋連生

2005 『農業学大寨始末』武漢：湖北人民出版社。

図们 祝東力

1995 『康生与〈内人党〉冤案』北京：中共中央党校出版社。

鄭光路

2006 『文革文闘』香港：美国海馬圖書出版公司。

内蒙古哲里木第三司令部

1968 『六十部小説毒在哪里』。

楊海英

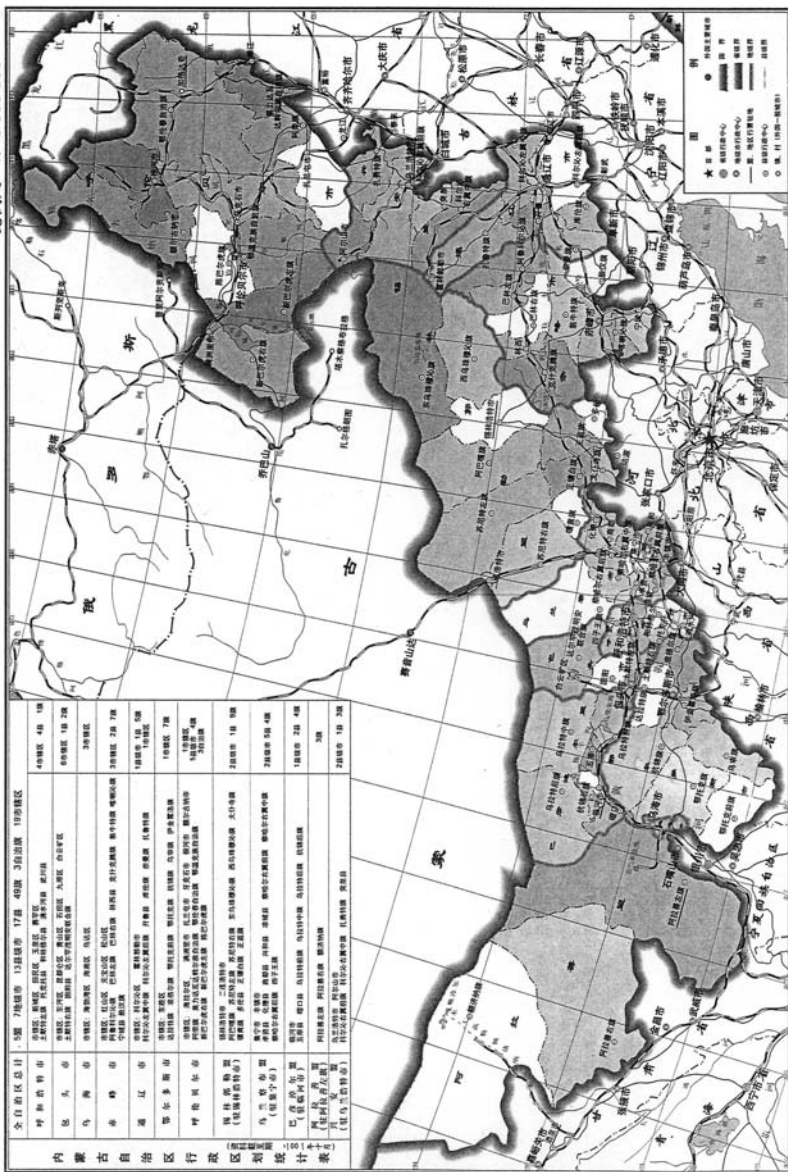
2008a 「モンゴル人の日記のなかの中国文化大革命(1)」静岡大学人文学部『人文論集』58・2：43－70。

2008b 「〈少数民族虐殺は正しかった〉－中国共産党唐山学習班班員の日記」静岡大学人文学部アジア研究プロジェクト『アジア研究』3：21－75。

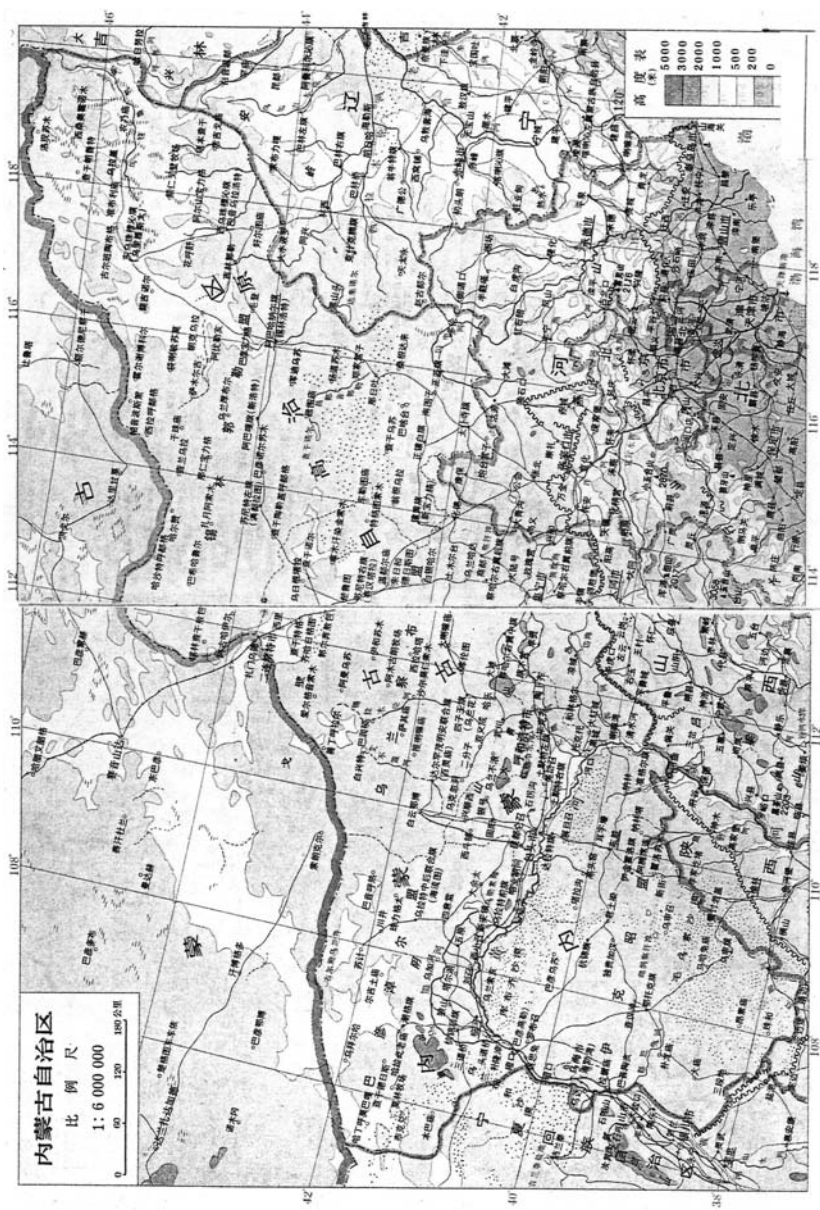
李志綏

1996 『毛澤東の私生活』（下）東京：文芸春秋社。

比例尺 1: 8 500 000



地图 1 现在的内蒙古自治区 (『内蒙古自治区地图册』中国地图出版社, 2002 年)



地図2 文化大革命中に分割された後の内モンゴル自治区 『知識青年地図冊』 地図出版社, 1975年

1968日记

元旦

“一唱雄鸡天下白，万方乐奏由于闾，诗人兴会更无前。”

公元一千九百六十八年来到了世界的东方——伟大社会主义中国的大地上，来到了内蒙古草原，来到了辽阔的阿拉善。人类解放的革命历史车轮向前推进的一年开始了。祖国文化大革命全面胜利的一年开始了。

新年钟声啊，洪亮悦耳。我以无比想念的心情向着遥远的毛主席——心中的红太阳致新年的敬礼，向着战斗的全世界真正马列主义者 and 几十亿劳动人民致新年的敬礼，向着前进的祖国全体革命人民致新年的敬礼。请你们接受我的无名的、无产的、无上忠诚的阶级心意吧！

在新的一年里，我将响应毛主席的号召，跟随着祖国文化革命的行列，在学习研究马列主义毛泽东思想方面，在关心国家大事参加文化革命方面，在接受新的红色政权革命委员会的任务完成工作方面，在抒发文化革命的激情写作新型的诗歌方面，在思想共产主义化，革命化方面都将取得比六七年更好，更快，更多的进步和胜利。这也是我的要求和决心。迎接新的一年战斗吧！困难、斗争、失败、弯路、胜利、很快都将属于我们，属于我！

元月二日

人民日报，红旗杂志的元旦社论中提到1968年几项任务，这是毛主席司令部向人民发出的伟大号召。看来1968年仍是激烈战斗的一年，文化革命将进行全面进攻取得全面胜利。我们应发扬革命到底，不断革命的精神，毫不松懈，迎接新的战斗。

元月三日

阶级革命是复杂的，文化革命是激烈的。现在在自治区揪出了乌兰夫反革命修正主义民族分裂主义集团的残余势力——这些妖身钻进新的红色政权机构的最危险的敌人。这个揪黑手的必然也会纵深发展。我想，巴盟，阿左旗这里处于社会主义祖国北部边疆的重要战略地带，乌兰夫这个狡猾野心家不得不考虑这一块地方，不得不安置黑手。这里的和平解放之客观情况更是让它艺术化，革命化一定是更复杂的。我们应头脑清醒，随时准备战斗，彻底揪出乌兰夫的一切黑手，保证祖国统一，迎头痛击苏修的报复阴谋。我们应该当一个决心把无产阶级文化大革命进行到底的革命派。

元月四日

革命不怕死，怕死不革命，为了毛主席，死了也甘心。

元月五日

毛主席啊，敬爱的毛主席，您的伟大形象在鼓舞我们造反，您的光辉思想在指挥我们战斗。想起您，我们心中升起一轮红日，想起您的话，我们奋不顾身干革命。

元月六日

晚上听了老艺人说的新故事，很有感想，说书，这是我们蒙古族祖先所传来的一门艺术。但是过去就像京剧一样，总是讲那些帝王将相才子佳人，根本没有伟大工农兵劳动人民的赞歌。文化革命以后好了，说书艺术也来了个革命，让工农兵劳动人民登台了。这才是时代的艺术，才是革命的宣传工具，才是人民的财富。

唱吧，尽情地唱吧，歌唱我们的伟大毛主席，歌唱共产主义事业，歌唱革命人民；说吧，畅快地说吧，说我们革命斗争的事，说我们伟大理想的心里话……。

元月七日

文学和艺术应该是人民群众的，必须是他们所喜爱，所欣赏，所懂的科学。这才是它的生命力和田地。如果人民群众中传播不了，普及不了，有何用哉。我必须探索作品的改善道路，革命道路。

元月八日

一个人没有哲学思想是庸俗的。一个革命者不会辩证唯物论就等于没有武器。这就是说如果不能真正理解马列主义毛泽东思想的主要思想学说，就不能很好地进行革命。哲学是各种科学中最崇高的一门科学，因为它直接关系到革命。我现在已经对哲学很感兴趣，我要努力学习马列主义毛泽东思想的哲学原理（当然全面学习马列主义毛泽东思想），但我不会去专门研究哲学，我可以以哲学来指导文学，在文学中表达哲学，这样可以革旧文学的命，对革命的文学做出新贡献。使文学真正成为马列主义毛泽东思想的东西。

元月九日

毛泽东思想的真理是报复不破的，毛泽东思想的真理永远存在。虽然少数人也好，你如果是真里派，完全能够最后战胜到底的非真里派。如今这里争论着“红旗革命会成立方案”，两派进行着同意和不同意的争论。

元月十日

“已是悬崖百丈冰，犹有花枝俏。俏也不争春，只把春来报，待到山花烂漫时，她在丛中笑”毛主席的这思想就是我们参加“成立红旗革命会方案”争论的唯一动机。革命不是为了捞稻草，发展发财，革命是为了人民。干革命不能有自私自利心。

元月十一日

今天读完了“莱蒙托夫传”一书。莱蒙托夫是俄罗斯伟大民族诗人。当然他不是我们今天我们所理解的那种意义上的革命者。他只是代表他那一时代的进步思想，对他那一黑暗社会的暴露者。从中也可以设想一个岗位。他的不朽诗歌比起他那一时代人物——马克思恩格斯的哲学发现，只不过是小孩儿的玩具而已。莱蒙托夫写那些自由诗篇，民族主义诗篇的时候，马恩已经写出了“共产党宣言”，已经发现了人类社会发展的规律，创立了科学共产主义。

所以，诗这种艺术，再不能是过去那种东西了，它也必须跟上马列主义毛泽东思想的发展，为它，即为革命服务，要配合一手，推动历史前进。这就是诗歌的历史使命。诗歌的命运就在于它的发展，在于它的跟上时代的作用性，在于它的同历史发展的符合性，具体地说就在于马列主义毛泽东思想的体现性。

元月十二日

文化革命中，有少过去堂堂有名的“作家”“诗人”倒了，有些人对此很担心，又怀疑，害怕把这些人打倒了，今后的文学艺术停止不前了，没有那样能干的人了。这种认识我认为极为糊涂，愚蠢，腐朽的。我认为这是个打破，不这样破也不行，这个破是历史前进的时代的需求。我们破，是破了旧的资产阶级的文艺，修正主义的文艺，而不是破某一个作家和诗人。理所当然，破了这样腐朽的文艺，即作品时，它的坚持者们，即那些堂堂有名的作家诗人也会抱着它一起被推到历史的垃圾堆里去，这没什么那么大的可惜和同情的。我们也承认这些人及其有些作品，在过去历史时期内，一定革命阶级中起过作用，也曾为历史发展的推动出过力。但昨天革命的，今天就不是革命的了，今天他们跟不上毛主席，跟不上时代，反而成了历史发展的资本主义，修正主义绊脚石。这种情况下滚滚向前的历史车轮不能饶恕他们了，把他们仍在后门，甚至压过去了。那这些人倒了，今后我们的无产阶级文学艺术怎么办？是否后继无人？这一点上用不着担心，我们现出这样“破了”这“破”中已经有了“立”，不需从形式上看起来好像有名的人，大人物少了，甚至没了，其实已经涌现出了比那些“倒下”的人多几倍，高几倍新的队伍，年轻的队伍。今天他们只不过还未杀出山要了，过一阵儿就会全部杀到台上，创造出前人梦想不到的毛泽东时代的奇迹。这就是历史唯物主义的观念。

元月十三日

晚上看了“毛主席第五次接见革命师生”的纪录片。又一次幸福地见到了银幕上的，活生生的毛主席。我的心啊，和那些被接见的年轻战友一样跳动，我的眼泪啊，和他们的眼泪一起流出。这一滴泪，这一个欢呼声，这一个跳起的动作，都表达了我们对这一代对毛主席所抱的热烈的忠心。毛主席呀，我的一生就是属于您，属于您的伟大事业。我这一生就专门歌颂、传播、捍卫您的伟大形象，伟大思想，伟大事业。谁人要是不能按您的思想办事，我就造他的反，谁人要是反对您，我就用自己尖刀一样的笔和火焰般的诗句，以及沸腾的热血和生命来和您斗争到底，拼到底。我这一生就是为毛泽东和他的伟大事业而生的。

元月十四日

“敬爱的毛主席，我们心中的红太阳。我有多少知心的话儿要对您讲，我有多少热情诗歌要给您诵”。一颗红心在向您您跳动，一张脸向着您红太阳。我日夜祝福您老人家，万寿无疆，万寿无疆，万寿无疆！”

元月十五日

一个革命者需能够团结和自己意见不同的人。现在文化革命中两派意见不同，观点不同的现象是经常的，客观的。我们在同志之间，虽然观点不同，但必须要热情，温暖。不要观点一不同就互相看不惯了，闹不团结了。会上辩论时可以激烈一些，但出来后也应该往常一样才好。

元月十六日

我们应该实事求是。不要那种形式主义，不要当那种伪君子。例如：现在上班时没办公的东西，那可以自学自习嘛，非要来个表面的形式主义，没有工作而坐在办公桌上，闲谈浪费时间。有就有，干干，没有就没有，不要来那种做局面，我最痛恨那种做革命派，那种伪君子。

元月十七日

阶级斗争的发展有着它的规律性，按着它的规律去发展，而不是以人们的意志去发展。这也是我在这文化大革命中才有体会。文化革命中这一类例子确实多得很。为什么各地造反派和保守派都有各自的共同点和血肉相连的联系呢？为什么各阶级有形形色色地反复呢，就是证明了以上论点。

元月十八日

马克思列宁主义毛泽东思想的生命就在于她的科学性。像历史发展的学说，阶级斗争的学说，这些都是科学的，所以人们只要理解了，那不得不相信，不得不信仰。科学的全面论证最有说服力和吸引力。我所以把自己的一生毫不动摇地献给马列毛的事业，一生中按马列毛学说去干革命，就是因为我被她的科学论证吸引了——虽然我是个普普通通的青年的马列毛主义者。

元月十九日

一个人掌握了马列主义毛泽东思想的唯物辩证法，那他就有万能的钥匙，就能打开一切科学宝库的大门，为革命献出一份需要的宝贵财产。特别是他在材料上能昂扬地，充满着信心和斗争力去战斗。

元月二十日

今天我们一行二十四造反派战友在前往巴盟上访途中来到银川，无住处两个人一个床，真是同志战友鱼水情，同甘共苦为革命。我们只要团结得像一个人一样，拧成一股绳，战斗到底，那么最后胜利一定是我们的，我们一定能实现用“鲜血和生命保卫毛主席的革命路线”这一战斗誓言。

元月二十一日

火车飞奔在银川草原上，歌声激荡在祖国的天空中。向着东方啊，向着北京，革命的列车一刻不停……（乘车来到巴音高勒）。

元月二十二日

“斗争就是幸福”。马克思的名言在心中。在文化革命的暴风骤雨里，遭到围攻，谩骂，毒打，甚至坐牢，这对我们来说都是锻炼成长的好机会，是最好的暴风雨再现实世面。在这些紧张的，惊心动魄的场合里应锻炼一种“脸不变色心不跳”的革命英雄主义，锻炼无所畏惧的坚强意志，这样对今后一生的革命斗争真有好处。今天我们高唱的战友们在盟上遭到一些人的围攻、轰走和毒打。但我们高唱革命语录歌，高喊毛主席万岁，顶住了。我们就如岩石一样挺立在阵地。这一群人是误解的，有情可原的，我们终究会得到理解的。我们是革命的，是伟大毛主席革命路线的，最后胜利一定会我们的。其乐无穷，其乐无穷，其乐无穷！

元月二十三日

革命不怕死，怕死不革命。只要中国不变色，死了也甘心。

元月二十四日

带着不怕暂时失败的乐观情绪，带着将来必胜的坚定信念，带着寄予毛主席的一片忠心，我们二十几名战友离开了巴彦高勒，上了火车，来到银川市。

元月二十五日

有些人总是把毛主席的号召和指示歪曲，或者各需所取要实用主义。毛主席指示要进行群众专政，要掀起群众专政的红色风暴。这是千真万确的。可是有的人现在把群众专政变成专政群众，不把矛头指向社会上的牛鬼蛇神，反而指向现实不同的是兄弟造反派和革命群众，挑起大规模斗，简直成了法西斯暴徒，他们打着群众专政的旗号，搞着见不得人的事情。真是可忍孰不可忍。这些人总会搬起石头打自己的脚，暴露出原形。

元月二十六日

在向胜利目标冲杀前进的途中，在未能真正达到目的地以前，形势再有利，把握再大也好，不能过早地高兴，不能过早的断言一切，不能过早的幻想着美梦，而应该始终从坏处着想，做好应付万一的准备，要冷静，要踏实，阵地要一个一个地去听言，直到最后取得胜利。我们这次上访不就是给了这样一个沉痛地教训啊！

元月二十七日

贺兰山下犹如海，黄河北岸春意浓，塞上古城银川市今天充满着节日的气氛，庆祝着宁夏革命造反派1.27夺权一周年。本月九日中央出了宁夏问题的决定象浩荡的春风，从红色首都北京传来了毛主席的声音。这声音如同一股暖流，使冰化雪融，大地回春，河山为之改色，人心为之振奋，一度被压得喘不过气来的宁夏造反派活起来了，他们打倒了杨静仁，马上揪出一小撮走资派，即刘少奇在宁夏的代表人，终于用鲜血和生命保卫了毛主席和毛主席的革命路线。他们浴血奋战一年多，牺牲了多少英雄战士。但今天已经胜利了。为此我致以崇高的敬意，我要学习宁夏造反派的这种忠于毛主席的革命精神。

元月二十八日

我们赴盟人员今天光荣回到巴音浩特，受到战友们的热烈欢迎。革命无罪，上访反映情况有理，我们有何耻辱呢，我们的行动是光明磊落的，我们的心是向着敬爱的毛主席，我们是革命的，我们是光荣的。

元月二十九日

毛主席啊，战士日夜想念您！想念着您，我们决心用鲜血和生命保卫您的革命路线，血战乌兰夫的残余余孽，保卫祖国的北部边疆，想念着您，我们顶住天塌下来的压力，坚决按照您的教导办事，保证红色政权的纯洁和健康！毛主席啊，您的伟大形象在教导我们战斗。

元月三十日

今天是春节。假如在家乡，定会按照良好的传统和乡亲们在一起扭秧歌舞，慰问军属，烈士，过得快乐。今天，在这里没有这一切，机关的同志们太多都回家了，没有人，独自过春节。但是我过得很有意义，读了一本马克思恩格斯的著作，作了笔记，算是革命化的节日啊！

春天来到了，祖国的春天来到了，我爱祖国的春天。毛泽东的太阳送来了春天的温暖，社会主义的东风送来了春天的喜讯。春天啊，这里永恒的春天在生存！

元月三十一日

我要系统学习马克思列宁主义毛主席的关于论文学艺术的著作，要掌握他们的文艺思想，要系统地学习运用，要在自己的革命文学道路上活学活用，真正按照马克思列宁主义的文艺思想来进行探索，要大胆进行“破”和“立”，为我们无产阶级的自己的文艺的发展和兴旺献出一滴水的力量。这是我在文学方面的志向。现在我正在如饥似渴地读着“马克思恩格斯论文艺”一书，第一次系统地遇见马克思恩格斯的伟大文艺思想。

二月一日

“不破不立，破中有立”。这就是今日我们对待文艺革命的伟大的毛泽东思想。我们要大胆地去破除资修的文艺，能破就能立，就能有我们无产阶级的社会主义共产主义的文艺的发展。

二月二日

我第一次见到“马恩列斯语录”，真高兴极了。这如同“毛主席语录”一样，是古往今来，世界上最宝贵的，最有价值的书啊！我们多么幸运，我们多么幸运！能把它捧在手里。我是年青的马列主义战士，我要掌握马列主义，而这本小红书是我们的革命武器呀！

二月三日

万里东风送喜讯，越南上方传捷报。战斗在越南上方的森林从生中的我们的反帝战友们近来开始向美伪军大举反攻，一直挺进西贡……啊，我兴奋的心展翅飞向南方，我的耳边似乎听到南方的炮声。我为越南战友的胜利而鼓舞。战斗啊，战斗到底就是胜利，战友兄弟们，直到在这份亲爱的国土上不留一个美国侵略者，不留一个剥削者……。光荣属于我们，胜利属于我们。

二月四日

“四海翻腾云水怒，五洲震荡风雷激”。今后的几十年里世界人民将要埋葬帝国主义，得到全人类的解放，而我们这生活在伟大毛主席时代的中国青年将要亲自参加这个埋葬帝国主义的斗争。我们将要响应毛主席的伟大号召，在林付统帅的百战百胜的战斗指挥下，向整个帝国主义阵容发动最后的进攻，向全世界无产者，劳动人民的全面培养下埋葬帝国主义，解放全世界的阶级兄弟。为此，我们必须从现在开始做好一切准备！这种战斗和胜利一定会来临。

二月五日

收到我同学们寄来的内蒙文艺界文化革命情况的传单，读了以后有所感受。过去的内蒙文艺界确实是个鬼地方，那里根本没有伟大的毛泽东思想，而是那些修正主义，民族分裂主义的黄色占领市场，到处泛滥。那个过去赫赫有名的所谓诗人们，原来是一个大特务。这些家伙的毒草都进入过去课本上，毒害过我们幼小的灵魂，今日终于在文化大革命中揪出来了，大快人心。不破不立，不破不修的文艺，岂能立出无产阶级的社会主义文艺呢？不打败反动文艺权威，岂能造就工农兵的革命文艺队伍呢？我作为一个文艺爱好者，坚决相信，通过这一场伟大革命，毛主席的太阳一定能照亮文艺阵地，我们一定要发展我们真正的革命文艺，让它比过去十倍，百倍地兴旺，沿着毛主席的文艺道路向前发展。

二月六日

宝贵的时间属于人民，属于我们的革命事业，而不仅仅是属于我们个人。所以怎样很好的利用时间，不浪费时间去学习，工作，劳动，去为人民做好事。这是关系到政治的问题，不是个人怎样支配的问题。我要爱惜时间，爱惜时间就是延长生命，就是对人民负责任。

二月七日

“否认贫农，便否认革命”。几个月以前，有人在文化大革命中否认贫下中农的作用，把他们几乎都打成“老保”，而把那些剥削阶级们，尤其更多的是剥削阶级出身的知识分子几乎统统说是“造反派”的时候，我曾经眼含热泪温习过毛主席的阶级斗争的理论和教导，理解贫下中农的真正心情，哪怕“信”也要，和他们站在一起，显然他们绝大部分不是受尊敬的，更不是什么老保。相隔几个月，回顾当时的斗争的里程，我认为自己是按照毛主席的阶级教导，揪阶级斗争的规律办事的。这是我一贯不变遵循的规律：贫下中农工人阶级在哪边，我就在哪边，而一刻一刻不脱离他们。

二月八日

揪出乌兰夫的残党余孽，把文化大革命进行到底，保卫祖国的北部边疆，同祖国永远统一，这是我们当前的一个重大政治责任。怀着这个心情我们造反派今天参加了揪乌兰夫残党斗争。

二月九日

“风雨送清明，飞雪迎春到。已是悬崖百丈冰，犹有花枝俏，俏也不争春，只把春来报，待到山花烂漫时，她在丛中笑……”

二月十日

革命是件不容易的事情，必须要准备付出巨大代价。

二月十一日

今天是星期天，我们在北山城墙上去野游。日丽风和的中午，雪花飞舞。登上城楼望远处，四面八方一片绿色，正像主席诗词里的情景：北国风光，千里冰封，万里雪飘……有数十棵青松还是绿油油地挺立在花园的小山上。城墙弯弯曲曲，此起彼伏像那万里长城。啊，祖国的河山如此美丽多娇。我热爱祖国的锦绣河山，热爱祖国的每一块儿地方。

二月十二日

写大字报，写争论性的大字报是一个最好的锻炼，对我们的行动很有益处。何况大字报在政治意义上说是一件新式武器呢。

二月十三日

我不怕阶级斗争大风大浪的吹打，索性迈向前去，见世面能锻炼。哪怕错了也好，也没什么，改了就行，因为我的心是鲜红的，忠于毛主席的。“血管里出来的都是血，喷泉里出来的都是水”噢！

二月十四日

在马克思的奋战的一生中来自反动势力的政治压迫和来自生活贫困的经济压迫从来没有离开过他，但是他以斗争当幸福，顽强地为世界无产阶级服务。以我们现在的时代和环境条件与马克思不同。但是我们在自己的革命的一生中，奋战的一生中准备迎接一切艰难困苦和“不幸的遭遇”，因为现在还是阶级存在的时代呀！我们不论干什么，爱国与压力之下也好，丝毫不能动摇对毛主席和他的伟大事业的忠心，必须艰苦奋斗一辈子。

二月十五日

当前群众专政的红色风暴席卷着祖国的北部边疆，群众专政是毛主席的一个思想，根据毛主席的这一思想抓起的这场运动的大方向完全正确，好得很。他只使真正的阶级敌人，“害人虫”们发抖，害怕。

二月十六日

我们是光荣的革命派战士，我们的心是鲜红的，我们的行动是革命的，光明磊落的，忠于毛主席的，我们只有一个信念：誓死保卫毛主席和他的伟大事业。我们没有什么对不起敬爱的毛主席的事，我们可能有缺点、错误，但我们的革命大方向是对的，历史将会用最灿烂的一页记载我们的功勋，历史应到我们无罪！

二月十七日

新的红色政权——革命委员会成立的前夕，塞上古城巴彦浩特里显出一片节日的景象。人们都忙碌在庆祝革命会成立的准备工作。革命委员会成立，这是个大好事，是无产阶级革命派在一年多来的文化大革命中英勇奋战的结果。革命委员会必须成立，必须立即成立，这是我们的内心的强烈希望啊。

二月十八日

“革命委员会好”——这是我们毛主席的声音，毛主席曾在三十多年以前就领导江西那一带人民，闹革命成立过一些地方的革命委员会。现在文化大革命中又成立革命委员会，这是多么有划时代意义的事情啊……

二月十九日

“钟山风与苍苔卷，百万雄师过大江。虎踞龙盘今胜昔，天翻地覆慨而慷……”。

二月二十日

江日一轮照草原，照沙漠。塞外古城——巴彦浩特，日丽风和，红如面，红如人山人海。上午十点钟开始，手拿毛主席语录的革命派一群群，一行行，迈着整齐步伐，抡着毛主席画像等从四面八方涌进东方红广场。十一点半庆祝阿左旗革命委员会成立，大会在雄壮的东方红歌声和热烈的欢呼声中开始。会上宣读了革命委员会第一号通告和大会给毛主席的致敬电。会后又举行了游行……

啊，毛主席的红太阳照亮了阿拉善，文化革命的胜利来到了阿拉善，新的红色政权——革命委员会诞生了，我们从党内一小撮走资派手里把党权政权夺过来了，统统夺过来了。祖国的北部边疆保持住了鲜红的颜色。我喜爱革命委员会，拥护革命委员会，保卫革命委员会，帮助革命委员会。

二月二十一日

继六六年破四旧的伟大群众运动之后，现在又掀起了一个群众专政的伟大群众运动，这个群众运动将把文化革命推进到全面胜利的阶段。这个运动的革命大方向定会正确，绝对正确。

二月二十二日

毛主席的思想，毛主席的指示，我们应该一字一句地坚决执行，不能高兴时执行，不高兴时就不执行了，有的执行，有的不执行。例如：毛主席说不要搞武斗，也不要搞偏向的武斗。这是我们必须要坚决照办的。可是有的同志偏偏在重要时刻忘记毛主席的教导，或者说了“群众运动嘛！”“现象又些过火儿”，为借口，明知不符合毛主席的思想，而专搞武斗。这真是个要不得的行为。毛主席的话，每句都是我们的最高司令的最严正的命令，我们必须一心一意地执行，去照办。

二月二十三日

局里决定让我也去大寨参观。啊，是多么有意义，多么难得的机会呀。大寨是我们毛主席亲自树立的一面红旗，它是全世界农村地区进入共产主义的榜样，是最闪烁着毛泽东思想的农村地区。我的心啊，展翅飞向将要亲眼看到的大寨。

二月二十四日

人民，只有人民，才是创造世界历史的动力。

二月二十五日

“农业学大寨”——毛泽东。

二月二十六日

展翅的雄鹰啊，飞向远方。飞快的汽车啊，出发于巴彦。我们的大寨参观团歌舞升平地，从巴彦浩特出发奔向大寨。来到银川，又上了火车。火车在飞奔，心情在跳动，向着那远方，向着那大寨。

二月二十七日

在大同市倒车，又在太原市倒车，长途的旅行仍在继续中。

二月二十八日

来到大寨北门——阳泉车站下。这里是大寨参观介绍处，大寨食堂。介绍处把我们参观团安排在平定县一个招待所住。虽然三天没有休息、睡觉，一直在车上，但同志们个个精神振奋，想到就要亲眼看到大寨无不为之欢欣鼓舞。

二月二十九日

汽车过昔阳，好像飞一样。大寨啊，我们来了，来到你心里了。虎头山出现在眼目中，几棵青松挺立在顶上。啊，这就是英雄大寨人的形象，这真是陈永贵的形象。大寨大门出现在眼前，“大寨”两个大字闪烁着红光。啊，你这闪烁着毛泽东思想红光的大地，你这全中国五亿农民的学习典范，全世界数十亿农民的榜样……。我多少次盼望能见到你，今天终于实现了美好的愿望。

我们同来自祖国西南边疆的广西的同志，东北边疆黑龙江的同志，东南边疆江苏的同志，同几千名同志一起参观了大寨。讲解员同志领上我们去了全部参观地点。老坎沟，狼窝掌，虎头山，这些曾在报纸上读过数百遍的名称，今天一一亲眼看到了。大寨的社员，大寨的贾成林这些在过去听过千万遍的名人，今天一一亲眼见到了。啊，此时此刻我是多么高兴，多么幸福啊。大寨的数百人，把这块穷山穷水改造造成了锦绣河山，这个惊人的事迹，怎能不让我激动！光荣啊，主席的思想，英雄啊，大寨的人，了不起啊，陈永贵……“向大寨学习”，祖国的一穷二白会快速地改变，祖国的河山，都会是成画一样。

下午三点我们依依不舍地上了汽车离开了大寨。我多么想再看一看，再停一停，但时间不允许了。再见吧，大寨，再见吧，英雄的同志们……

三月一日

火车从阳泉出发，飞驰在华北草原上。在窗外，安静的深夜，我睡不着，低声唱着歌，“千万个红心向着北方……”东方红，太阳升，红光照进车厢里。火车迎着初升的太阳，向着红日升起的地方一样地奔驰着。突然眼前出现了红光一片，高楼层层，绿树片片，歌声阵阵，啊，北京，北京，北京，祖国的首都，世界的心脏，毛主席居住的地方啊……参观团来到北京。当我下车走进北京站时，心情多么高兴，当我来到天安门楼下，我的眼泪多么盈眶。啊北京，啊中国，啊毛主席……我这是第几次见到您，但我比以前任何一次更为激动，感到新鲜。我多么热爱祖国的首都北京。我多么幸福啊。在毛主席居住的首都，在离中南海不远的地方住一夜。

三月二日

雄鹰飞走了，从太阳升起的山顶飞去了，雄鹰飞去了，它恋恋不舍地回头望着光辉的山顶。我告别了，从毛主席居住的首都——北京告别了。我恋恋不舍地从车窗外目里着灿烂的北京。车儿啊，停一停，让我再次把亲爱的北京看个够。再见吧，北京，再见吧，红色的首都……

三月三日

火车跑过了八达岭，飞过了长城，来到塞外长城——呼和浩特，我曾学习过的地方。呼和浩特春意浓浓，但她充满着文化革命战斗的气氛，进行着揪尽乌兰夫残余党余孽的决定。

三月四日

在这里我见到了我理想的战友——额尔德木特古斯，以及其他同学，我们热情谈论着一切，“振兴江山，激扬文字”。

三月五日

离开了文化革命的战火纷飞呼和浩特，奔回了自己的战斗前哨。这次来呼和对当前的形势发展的认识大有帮助。我要向呼和决心把无产阶级文化革命进行到底的革命派学习，像他们那样去迎接革命的全面胜利。

三月六日

途中来到三盛公，盟上形势也同内蒙一样形势大好，不是不好。人民群众充分发动起来了，运动已进入又一个高潮，紧接着全面胜利，战胜着右倾势力。

三月七日

(在银川)。

三月八日

来到巴音浩特。我离开巴音才十多天，但是这里的文化革命大不相同了，揪乌兰夫残余党余孽的斗争掀起了高潮，揪乌战士们从被压制中解放出来了，扬眉吐气，精神抖擞。

三月九日

巴彦浩特开始乱了，多单位开始乱了，乱了敌人，乱得好！

三月十日

今天旗揪乌联络站开了“斗争乌兰夫残余党余孽的大会”。宣读了“告全旗人民书”。这个会开得好，特别鼓舞人们去投入揪乌残余党余孽的人民战争。

三月十一日

我们这阿左旗处在祖国北部边疆的反修前哨，是个极为重要的战略阵地。乌兰夫叛国投敌集团，和他以前的一切卖国贼都把这块地方看中在眼里，安插他们的信徒，企图叛国投敌作准备。因此我们必须严密，密切的注视这里的局势，注视暗藏在这里的一切阶级敌人的一举一动。为保卫祖国的统一和伟大毛泽东思想的水放光芒而斗争。

三月十二日

揪乌战士的旗帜在飘扬，揪乌战士的号角在响亮。前进吧，战斗吧，同志们，为毛主席而奋斗，为毛主席的革命路线而战！

三月十三日
砍头不要紧，只怕主义真，保卫毛主席，死了也甘心。

革命的“小人物”是否忠于毛主席的，是要革命的，他们十几年来如一日，为毛主席的事业而奋斗。如今竟然有人来压制他们，不许他们起来揪乌兰夫残党余孽，这真是十足的假洋鬼子。革命的“小人物”冲破阻力，踢开绊脚石起来革命吧。

三月十四日
晚上参加了“坚决支持革命小人物起来革命的誓师大会”。大会开得很好，每个发展的人都表达出来了革命小人物忠于毛主席的心情。特别是一个小人的发言，特别使人感动。是啊，革命小人物绝大多数是贫苦阶级出身的。他们十七年来最忠于毛主席。只是在去年反二月逆流的斗争中站错了队而受到压制，被称为“老保”。今天，他们在毛主席的关怀下又起来了，岂能不感动呢。我也可算是一个类似小人物，我决心同一切革命小人物一道，为保卫毛主席而奋斗到底。

三月十五日
毛主席说：“现在大喊大叫的人一定会成为昙花一现的人物，真正有希望的是想问题的人。”无论在文化大革命中，还是在一生一世的革命中，我决不能成为那种只是大喊大叫的人，我要成为一个想问题的人，成为一个实际革命者。

三月十六日
我们年纪过二十的人，爱情是迟早要遇到的，必须要正确地对待，必须要妥善处理。爱情也不能离开革命理想，它应该为共同的革命理想所服务。选择一个什么样的终身伴侣思想上必须要抓“革命大方向”。爱人不但是一个伴侣，更应该是一个革命的战友，斗士。必须要脱离低级趣味。

三月十七日
马克思主义毛泽东思想的活的灵魂就是辩证唯物论。我们如果能掌握辩证唯物论，就能找到万能的钥匙，就能攻无不克，战无不胜，就能走遍天下干革命。我们这些搞文学的人，也只有掌握辩证唯物论，才能闯出无产阶级的新文艺。

三月十八日
毛主席的文艺思想究竟是什么？对这一点我现在可以说还是远远没有懂得。过去那些反动文学“权威”们，打着红旗反红旗，以解放毛主席文艺思想为名，篡改和歪曲毛主席的文艺思想的罪恶事情，企图蒙蔽我们年轻一代，不让我们真正掌握毛主席的文艺思想。

三月十九日
我这一生的革命文学事业中一定要真正把毛主席的文艺思想体现出来，百分之百地用毛主席的文艺思想来解释文学原理，进行文学创作。

三月二十日
“尤有花枝俏，俏也不争春，只把春来报。待到山花烂漫时，她在丛中笑。”

三月二十一日
春雷连天下，让我们很高兴。今年是取得文化革命全面胜利的一年，草原上的牧业生产又一定是个丰收年。

三月二十二日
为图克木公社革命委员会的成立和庆祝大会写毛主席的教导中的指示和翻译，我几乎彻夜没睡。这是具体的为人民服务，这是实际的工作热情，应该这样。

三月二十三日
谎言掩盖不了事实，谎言颠倒不了历史。有些别有用心的大先生们说我们是打这里一个走资派，保另一个走资派。哈哈，可笑死了。这两个家伙是一丘之貉，都是走资派，我们岂能去保他呢？先生们不是造谣中伤，您想保就保去吧，我们光荣的揪乌战士是决不会保的。

三月二十四日
天才这个东西是有的，不承认天才不是马克思主义毛泽东思想。例如：马克思是十九世纪的天才，毛泽东是当代的天才。当代世界上谁能比得上毛主席，所以说毛主席是天才。他们是天才非凡的人物，天才是有的，别人不会有。但是天才是怎么来的，只有通过勤奋，在某种意义上说“天才是勤奋的结果”。但是也不能说凡是勤奋的都会有天才。只能相对地说。毛主席的天才是通过几十年实践勤奋得来的，但是别的人勤奋几十年，几百年也达不到毛主席的水平。所以说天才是只有少数人所有的。一般人有才能的倒是有些。不论天才也罢，才能也罢，是从勤奋来的，而且必须是方向对头。方向不对，哪能来天才和才能。宝贵的天才和才能属于人民，而不是属于个人。“天才是勤奋的结果，就是鼓足干劲。”

三月二十五日
“在某种意义上来说，最聪明，最有才能的是最有实践经验的战士”。（最高指示）

三月二十六日
为革命，昂首敢登断头台，含笑去见马克思。斗争生活是战士的乐趣，贪图安逸是庸人的嗜好。

三月二十七日
文化大革命中出现了不少昙花一现的人物，他们这些“风云人物”出其不意，轰动一时，似乎比革命还要革命。但是不过一时就自然而然地从政治舞台上消失了。这样的人忽然而来的不速之客难道我们见得少吗？看那陶铸，王力，戚本禹等人，他们爬上面多快，多高啊！可是他们倒下得又多快，多残啊！这些人是一些投机分子，是一些假革命，别人一时能装模作样，但是不过几时，原形毕露，每个人要走什么样的道路，只有自己知道。但是深信不疑的一点是：历史将按照它的规律发展，革命将按照它的规律前进。

三月二十八日
“要斗私，批修”——这是我们敬爱的毛主席的战斗口号和殷切希望。这是文化革命的纲领，这是在帮助无产阶级专政条件下继续进行革命的准则。

三月二十九日
看了苏联早期影片“列宁在十月”很感动。伟大列宁和列宁的布尔什维克的形象永远活在我的心理。那些苏修工贼们背叛了伟大的列宁，在苏联实现了资本主义复辟，实在让人痛心。但是我相信“毛主席在十月”，继续着列宁的十月革命，苏联和世界总有一天会得到全部解放的。

三月三十日
“毛泽东思想指导下的人民革命历史是前进的火车头”。

三月三十一日
当前阶级斗争反复很大。在中央一时出名的杨成武等人引起反革命事件，狗胆包天，反对毛主席，林副主席，在全国名地也有变色龙在猖狂活动。文化革命后期任务就是揪出这些变色龙，真正把无产阶级江山巩固下来。

四月一日
杨成武式的企图阻碍历史潮流的丑角随时会遇到几个，但是这种丑角怎样滔滔而来，总不会阻碍住历史车轮，反而被压得粉碎。每个人要走什么样的道路，是全靠自己出来选择，但是我们深信不疑的一点是历史将会按照马列主义毛泽东思想所指示的规律前进。

四月二日
革命者，从事每一项事业时，都不能那么自私，那么患得患失，都不能从“对我有利于否”去考虑，都不能说想先打保票才去革命。革命者只能考虑革命，只能从对人民，对革命有利与否去考虑。只要是对“公”有利就干，哪怕是对“私”有多大的不利也好。革命岂能只为我，胸怀“公”字，要斗争。我必须同革命共同着命运。

四月三日
“喷泉离出来的都是水，血管里出来的都是血”（鲁迅语）。我们的心是鲜红的，是忠于毛主席的，我们的行动是光明

磊落的，是革命的；我们哪能害怕那些企图毒害我们的谎言和诡辩。

四月四日

凡是镇压群众运动的都是从惧人开始，害己告终。革命群众是忠于毛主席的，革命群众才是捍卫毛主席的，如果有人站在他的反面进行镇压必定会自取灭亡。

四月五日

当革命进入低潮，出现艰苦环境时，英勇战斗的人才是真正的革命者。我们必须坚决相信，阶级斗争即将按照毛主席所指示的规律前进，只要革命大方向正确必定会胜利。

四月六日

“抬头望北斗星，心中想念毛泽东。黑夜里想念有方向，迷路时想念照路程……”此时此刻，只有这首歌才能表达出我的心情。

四月七日

毛主席啊，毛主席，战士日夜想念您……。

四月八日

百里草原春意浓，策马并驾向西行，辽阔原野心宽敞，为党为民俺下乡。来到通古淖尔公社所在地开始了火热的生活——同贫苦牧民社员的生活。

四月九日

腾格里沙漠，祖国的金色土地，毛主席阳光照耀下的家乡啊。她虽然有干旱和风沙，但是我们仍然爱她，正如爱那绿水青山一样，仍然要建设她。因为她是祖国的土地啊！今天我住在腾格里沙漠而感到自豪……。

四月十日

生活就是革命，生活就是斗争。生活必须是在火热的运动中，必须是在斗争的战场上，必须是在人民的海洋里。所以我认为最有生活意义的地方是工人，农民，战士；即有劳动人民的地方，是艰苦的地方。一个革命者长年累月在城市里，机关里，接近不上工农兵，参加不上劳动和群众斗争，那简直是痛苦的，是没有意义的。这好比一个温室里的鲜花，一个是暴风雨里的青松。斗争生活是战士的乐趣，贪图安逸是庸人的嗜好。

四月十一日

时间是宝贵的，浪费它是罪孽。能利用时间，不浪费时间去从事为人民为革命的有益的工作学习，那是延长生命。对我来说时间是多么宝贵呀，然而为什么无作无工的消耗呢？利用时间吧，节约时间吧，和时间赛跑吧！

四月十二日

今天从通古淖尔公社又回到巴彦浩特。遗憾的是到该公社吃了几天饭，未能下乡为人民服务就回来了。未能见到那山高的沙漠和美丽的绿洲就回来了。

四月十三日

今天是“中共中央关于处理内蒙古问题的决定”发表一周年纪念日，巴镇数千名革命派开庆祝大会纪念这光辉的“节日”。是这中央八条的光辉照亮了内蒙古草原，乌兰夫之流在内蒙复辟的美梦之破产，保证了内蒙古地区文化革命的根本胜利。所以值得庆祝，大庆，特庆。今后继续按照八条精神，将革命进行到底，取得全面胜利。

四月十四日

机关里已经批我请假探亲。我几年没有回家，我这个人基本上没有家乡观点了，革命岂能胸怀那么一小家，应该胸怀国家，放眼世界。

四月十五日

汽车从塞上古城——巴彦浩特出来越过贺兰山，飞过三天，来到银川市。我从汽车上下来又上火车，向着东方，向着北京，向着自己的家乡——东北前进。我的心啊，如今才觉得有些“想家”，展翅飞翔……。

四月十六日

红日在东方地平线上升起，万道金光照耀草原，照进车厢里，照进我们的心理。火车迈着那红光，鸣着汽笛飞速前进。来自五湖四海的旅客，在车厢里各捧红书一本，面对红太阳——毛主席的像高唱“东方红”，向毛主席发誓，朗诵语录。啊，这是怎样一个动人的情景，这是一个有意义的旅行。车儿呀，飞奔吧，带着我们想念毛主席的心情快速飞奔吧，回到北京，向着太阳，向着毛主席……。（今日来到呼和浩特）

四月十七日

呼和浩特春意浓，红旗招展歌声亮。毛主席支持美国黑人抗暴斗争的声明的发表，使得青城人民欢欣鼓舞，人们在游行，人们在聚会，响应伟大领袖的国际主义战斗号令，支持美国黑人的抗暴斗争。

四月十八日

乘车来到四子王旗，一路上见到大青山中公路，很激动。社会主义的公路啊，穿过云层，弯弯曲曲，征服高山。社会主义的车儿啊，飞过高山，向上向上，登上光辉的顶点。

四月十九日

告别姐姐和外甥们，从乌兰花来到呼和浩特。

四月二十日

火车从呼和浩特出发，在灯光的海洋里，穿过夜间的大地奔向了东方太阳升起的地方——我们敬爱的毛主席居住的红色首都——北京。车儿呀，尽情地飞奔吧，飞向那世界的中心，飞向那太阳升起的地方……。

四月二十一日

我多么幸福，多么自豪，我多么愉快。此时此刻又一次站立在天安门广场，仰望着天安门上红太阳——敬爱的毛主席的巨幅画像，心血沸腾，热泪盈眶。我每一次来北京总要来一趟天安门广场。“从草原来到天安门广场，高举语录把赞歌唱，想念心中的红太阳，敬祝毛主席万寿无疆！”

四月二十二日

北京的太阳最红，北京的树木最绿，北京的旗帜最红，北京的歌声最美。这一切都吸引着我。但我真正最最热爱的，敬爱的是那最红最红的红太阳——毛主席。他老人家照耀着北京，照耀着祖国，照耀着全世界，照耀着我们的心坎里。

四月二十三日

再见北京，再见吧红色的首都，来到北京，想念北京，离开北京，留恋北京……。

四月二十四日

来到了离别已久的辽河岸上的一城市——通辽。对于它的变化和发展感到格外惊奇和兴奋。通辽是我童年的摇篮，就在那里我渡过了天真烂漫的青年和少年，渡过那红领巾时代，伟大毛主席的阳光啊，照到这里，让我健康地成长在这里，从小培养了共产主义革命理想，所以我称之为少年的故乡。今天来到这里亲眼看到曾学习过的第二中学，曾授过课的老师，回忆起十几年前的情景很兴奋。

四月二十五日

火车在飞奔，心儿在飞翔，歌声在震荡，热血在沸腾。到“烟灯吐车站了”，我下来了，我从车上下来了。啊，家乡，啊，我亲爱的家乡！我回来了，回到您怀抱了。眼前显出的不是我的故乡，哦，是一幅闪烁着伟大毛泽东思想光辉的新蓝图。看那双轨铁路，看那长长的列车，看那新建起来的房屋……变了，一切都变了，我的家乡啊，发展的如此快。更值得高兴的是我的家乡正在正在文化革命的疾风暴雨和和风化雨的淋漓中变化，红颜色更加鲜红。下午步行来到成长的家乡——中哈嘎屯，来到家里兴奋的心情是更难以形容。

四月二十六日

家乡的水啊，甜的很。家乡的高粱米啊，香得很。家乡的田野啊，绿得很。家乡的歌声啊，动听得很。家乡的贫下中农革命老乡啊，亲热得很。

四月二十七日

从家里来到佰兴图屯，见到小学时的几个同学，回忆往昔太有意思了。我的同学们啊，遍全国，在各自的岗位上，为人民服务。不论在哪里，干什么，我们都生活在同一轮红日的照耀下，战斗在同一面红旗的招展下，前进在同一条道路的方向上。我们要永远团结在毛主席的旗帜下。永远忠于毛主席和他的伟大事业。

四月二十八日

农村的文化大革命重点应该是整一小撮走资派及社会上的牛鬼蛇神——地富反坏右。其他问题，例如，违法乱纪的问题则都不是那种重点问题。如果把前者放弃，来整后者，那就会失去大方向，犯方向路线错误。

四月二十九日

“心中唯有红太阳，一切献给毛主席！”英雄刘学保的这一誓言表达了我们这一代毛泽东的战士的气壮山河的革命雄心。刘学保永远值得我学习，当他为了保卫文化大革命，保卫社会主义的大桥，抢着要爆炸的炸药跑的时候，在这迎接伟大死亡的一刹那间，他高声喊着“毛主席万岁，毛主席万岁……”，啊，这是怎样一个可歌可泣的一颗红心，一片忠心。是啊，作为毛泽东主义者，毛主席的忠于者，在死亡的时候能够喊这样一个气壮山河的“毛主席万岁”的口号，那他才算得上一个言行一致者。我要向刘学保学习要像他那样时刻忠于毛主席，时时刻刻心中有毛主席，一切都要献给毛主席！

四月三十日

心中唯有红太阳，一切献给毛主席！

四月三十一日

劳动，我参加了家乡的劳动。家乡的劳动啊，是我从小学到的一项本领。

五月一日

今天全世界无产阶级劳动人民的节日。这个光辉的节日，我在自己的家乡渡过，同家乡的贫下中农一起渡过，在劳动中渡过有着—往无前的意义。今天，在我的家乡，在我的亲爱的祖国，劳动人民正在享受着社会主义革命的自由和幸福，但是在帝修反所统治的一些国家里，我们的数百万劳动人民——这些阶级兄弟在黑暗和死亡中挣扎。不，他们在黑暗和死亡中反抗着，战斗着。全世界劳动人民正在用自己的战斗来欢度自己的节日。他们正在举起伟大毛泽东的旗帜，用革命的斗争的鲜血染红着自己的节日。这是今日“五一”，这是全世界的最光荣的节日。

五月二日

“起来，饥寒交迫的奴隶！”“起来，全世界受苦的人……”，起来全世界无产阶级，起来，全世界劳动人民，跟着太阳，跟着毛主席，战斗吧，血战吧，世界属于劳动人民，未来属于劳动人民。

五月三日

斗争就是幸福，劳动则是一种斗争，所以劳动也是幸福。

五月四日

“今后的几十年对于祖国的前途，人类的命运是多么宝贵而重要的时局啊……”。有志有抱负的中国青年一定要完成我们伟大的历史任务……。

五四青年节，我们到了伟大毛主席对我们年轻一代的期望和要求，我们一定要按照毛主席的教导去发出青年的光和热，为革命，为毛主席敬献出青春的一切。（今天到大林）

五月五日

从大林步行来到家里的途中见到离别已久的，曾经生活过劳动过的家乡的潮水和一草一木，记忆里格外地亲切。家乡好啊，社会主义的家乡好。我的家乡的风景是一幅美丽的图画，我家乡的文化革命的新气氛那更是令人鼓舞。我爱我社会主义的家乡，因为她是我亲爱的祖国的一块金色土地。

五月六日

劳动就是斗争，劳动也不是一帆风顺的，它也必须付出一定的艰难和代价。

五月七日

一个革命者的锻炼也简直多：它需要在阶级的革命斗争中锻炼，需要在生活的劳动斗争中锻炼，需要在学习的过程中锻炼。

五月八日

群众才是真正的英雄，我家乡的群众才是真正的英雄。他们比我高贵千百倍，他们比我知识千百倍。所以我在抱有如此的态度：向家乡的群众学习！向家乡的人民学习！向家乡的贫下中农学习！

五月九日

我现在比劳动人民差距多大呀。参加几天劳动身体就受不了啦。这也认为是思想感情上的缺乏。啊，我需要锻炼，锻炼，再锻炼！

五月十日

哈嘎湖水在阳光下闪光，鱼儿在湖底里游翔，绿色丘陵在云层下屹立，鸟儿在长空歌唱；火车在飞奔，电话线在伸延，红旗招展，牛羊肥壮，我的家乡啊，多么可爱。

五月十一日

我爱毛泽东思想照耀下的家乡。

五月十二日

“人民，只有人民，才是创造世界历史的动力。”

五月十三日

“毛泽东思想照耀下的人民革命是历史前进的火车头。”

五月十四日

假如人民需要我来到这故乡，在农村安家落户，当公社社员，那么我一定会做到：高高兴兴地回家乡，安心情愿搞农务，边劳动边进行业余创作，在千辛万苦中照样战斗下去，歌唱下去，为建设社会主义农村而献出一生。

五月十五日

不远数千里，来找我的同学和革命战友——在家乡农村当农民的一个同志，见面后格外亲热。友谊啊，不能是那种自私自利吃喝玩乐的腐朽的无用的友谊。友谊必须是革命的友谊，共产主义理想的友谊，友谊者定是共战者，必须是志同道合者。

五月十六日

今天是中共中央66年5月16日通知发表两周年。喜看今天是全国文化大革命已经取得决定性胜利，进入巩固和发展胜利的阶段。“宜将剩勇追穷寇，不可沽名学霸王……”。

五月十七日

新开河岸，宝龙山，是我亲爱的革命的家乡。几年前才是一片荒莽草原，而如今已是火车飞奔，大路宽广的地方。呵，家乡的飞跃发展，呵，真让我感到骄傲！

五月十八日

家乡多么美丽，多么好！但是我在家乡思念着我生活和战斗者的地方——辽阔的阿拉善。那是毛主席和党派给我去的地方，那是人民需要服务的的地方，那是革命需要我的地方。对那里的一草一木我都有深远的感情，我爱那地方，我愿把自己的壮丽的一生献给她——祖国北部边疆，辽阔的阿拉善。

我思念着我的战斗岗位！

五月十九日

在俺今日之社会主义社会里，父母与学弟之间，兄弟姐妹之间的关系均系革命的关系，崭新的关系。百分之百的平等的关系。而不能是那种封建社会的家族关系。不管是上下辈，都应该互相批评，互相帮助，听话都应该听毛主席的话，而

不应该只听家长或长辈的话。谁的话是革命的真理，符合毛泽东思想，哪怕是出自三岁小孩的嘴里，都应该听。这才是共产主义的人与人之间的新型关系。

五月二十日

那些什么“孝父”“孝母”，什么父母上一等，子女下一等，等等封建家庭制度，孔夫子的腐朽学说统统鬼去吧！统统滚到历史的垃圾堆里去吧！今天不是孔夫子的封建时代！今天是伟大的毛泽东的社会主义时代！

五月二十一日

代位青年，代位子女都属于自己人民，自己的祖国，自己的革命，属于人类中占据大多数的贫苦大众。而不只属于自己的父母，青年，学业是属于“众”，而不是属于“私”！

五月二十二日

在伟大的巴黎公社社员们的故乡——法国，近日又爆发了数百万工人，学生的革命运动，大罢工，罢课迅猛异常，大革命冲击着整个腐朽的法国资产阶级的王朝。我从广播里听到以后，国际主义的鲜血在胸中沸腾。致敬，伟大的巴黎公社社员们！我要向你们致敬！你们是二十世纪六十年代伟大毛泽东时代的巴黎公社社员！战斗吧，我的阶级兄弟。我向你们高呼：走巴黎公社未走过的武装革命的道路，解放你们的祖国和无产阶级，劳动人民！

五月二十三日

起来，饥寒交迫的奴隶！

起来，全世界受苦的人！……

五月二十四日

四海翻腾水怒，五洲震荡风雷激。全世界无产阶级劳动人民，让我们拿起武器起来吧！同万恶的旧世界作拼死命的斗争！埋葬帝国主义，埋葬帝国家，埋葬反动派，埋葬一切压迫人民，剥削人的害人虫！世界将属于我们！

五月二十五日

我非常热爱自己生长的家乡，但是我更热爱自己的亲爱的祖国的每一寸土地。那偏僻而荒凉的西北高原，那千里沙漠的阿拉善，我爱胜过家乡，她是我战斗的岗位，为人民服务的地方呵！我宁愿把自己的一生献给那里，直到生命的最后一刻，而宁愿不来家乡！

五月二十六日

思念我工作的战斗的地方——辽阔的阿拉善……

五月二十七日

我们的时代是伟大的毛泽东时代，是英雄辈出的时代，是六亿神州尽舜尧的时代！他的毛泽东思想哺育着千百万革命者和英雄战士。近日在全国推广介绍的伟大的共产主义战士和同志就其中的一个。他那可泣可歌，舍己为人的形象激动着我，唤起我的革命感和为人民服务感。他才是一个高尚的人，纯粹的人，有道德的人，脱离了低级趣味的人，有利于人民的人，他才是一个真正的人。

五月二十八日

向门和同志学习，向英雄门和学习！要做一个像那样的战士，要做一个像他那样的人！

五月二十九日

青松永远在青海，蒙和永活在心怀。英雄的声名啊，伟大的形象，值得我学习！永远值得学习！

五月三十日

为人民利益而死就比泰山还重，蒙和同志是为人民利益而死的，他的死是比泰山还重要的。

六月一日

今天是一九六一年儿童节。往年我看到的都是城市里的儿童穿着节日服装形成行列载歌载舞欢庆节日。而今天所看到的是农村的儿童，是连我小妹妹在内的家乡的儿童，他们活泼可爱，穿着朴素的服装，带着红小兵袖章，胸前佩戴着毛主席像章和语录啊，拿着主席像和毛主席语录，举着红旗，排列成队，在村子里游行，唱歌……，我的心真激动。啊，我可爱的小弟小妹妹们，革命的继承者们，你们健康地成长吧，快快成长吧，为人类解放，为祖国富强，你们和我们青年一起在这一辈子里誓死捍卫敬爱的毛主席而艰苦奋斗吧，为实现共产主义而艰苦奋斗吧！

六月二日

儿童是祖国和世界的未来，是共产主义革命的希望。

六月三日

今日我在嘎索太见到离别已久的几个同学，分外亲热，那些和他们在一起的日子，闯进我的忆海。我的同学是我的同志，战友，战友，都是毛主席的阳光下长大成人的革命儿女，我们有着共同的目标和信念。

六月四日

我即将要离开亲爱的故乡，我现在渡着在家乡的最后一天的最后一夜。

六月五日

夜莺从她可爱的山顶飞离了，他展翅翅膀，向着远方飞去了，但它留恋地回头望着那可爱的山顶。啊，我日夜莺，我就像那夜莺，今天离开我生长的亲爱的家乡，奔回自己的战斗岗位，工作地方了。我留恋我的家乡，我一次又一次地回头看着我的家乡，热泪盈眶，鲜血沸腾。我多么不愿离开自己的故乡，我多么热爱自己的摇篮，她是我我的摇篮，在这里我渡过了天真烂漫的童年。我吃着她的五谷粮和甜水。这次回来才看了一个月，如今又要离开她，心里多么留恋。我爱自己的家乡，我更爱自己的社会主义祖国和祖国的其他每一寸土地，我最爱我的共产主义革命理想，所以我以革命的需要，人民的需要作为无声的军令，离开家乡，奔向远方。

再见的吧，家乡！

再见的吧，我可爱的家乡！（今天来到通辽）

六月六日

“对广大人民群众保护还是镇压，是共产党同国民党的根本区别，是无产阶级同资产阶级的根本区别。是无产阶级专政同资产阶级专政的根本区别。”这是多么充满阶级感情的伟大真理之声音呵！这是我们的毛主席的声音，毛主席的这一最新指示有着永久的意义，是前所未有的马克思主义群众观点，革命观点。你好啊，他好，都说自己好，但是各派别，各人，究竟好不好，究竟是属于人民的，还是不属于人民的，唯一的分别标准是这个保护人民还是镇压人民的区别上。保护人民是革命的，镇压人民的，就是反革命的。谁要保护人民群众谁就能生存，谁要镇压人民谁就会灭亡，这是历史辩证法的无情的规律。

世界亿万人民群众的保护者——毛泽东万岁！

毛主席的保护人民群众之思想万岁！

六月七日

列车鸣笛离通辽，东北平原后边留。革命志气在远方，展翅飞翔心情愿。

六月八日

像那歌鸟留恋绿树，像那江水奔向大海，我的全心全意。呵，留恋着天安门。我每次来北京总要到天安门，看一看。今天我又一次幸福地来到天安门，眼望着毛主席的活生生的画像，以无比激动的心情敬祝毛主席万寿无疆！（下午乘坐快火车离开北京）

六月九日

我们的友谊乃革命的友谊，无产阶级的友谊，新型的友谊。革命的同志之间，朋友之间，不应该用那些腐朽的资产阶级“金钱关系”“吃喝关系”来交往，而应该多以理想事业来交往。（今来到呼和浩特）

六月十日

革命鲜红的这个派别，那个派别，都不应该互相敌对，互相打骂，互相吃掉。我认为现在文化革命中的群总派别中，90%以上人都是拥护毛主席，保卫毛主席的，都是革命的。哪个派别若有坏人，那还不是一小撮，广大群众肯定是好的。所以什么解散，什么搞垮都是反马克思主义反毛泽东思想的做法。除了极个别人的反动小集团外，不可能有数千数万人的反动组织，因为群众是要革命的，所以虽然有，那也是暂时的。（今天从呼市来到包头）

六月十一日

在中国，在世界，百分之九十以上的人，终究要革命的，终究要跟随马列毛的，终究要按历史发展的规律前进的。有些人暂时它不革命，跟帝修反，跟走资派走，但是他们也终究有一天会醒起来的。（今天从包头来到巴音高勒）

六月十二日

文化革命已经进入全面胜利的阶段，有些人还是不理解毛主席的文化革命的战略策略，还是搞派性，还是搞武斗，真是艰难和耻辱，实在不像话。

六月十三日

我是一个马列主义毛泽东思想的宣传员，我是一个共产主义革命斗争的战斗员，我是一个人民群众的服务员。我就是这样一个“三员”。我就要这样一个“三员”职务，除此之外我不要什么各类地位，头衔，官职。我永远是这种普通的“三员”。这是我的人生之声名。

六月十四日

一个理想者，一个事业者，他如果被病魔抓住，那他很难去做自己想做的这一切。这对于他来说是痛苦不堪的事了。这两天我病得，想看点书都不能，我觉得病魔是灾难，必须以自信的预防和抵抗去抵制它。

六月十五日

同病魔斗争的唯一积极，辩证的方法则是：锻炼，锻炼，再锻炼！

六月十六日

甘心情愿结合在一起的爱情对双方是“幸福”，相反凑合在一起的爱情对双方来说是“苦难”。当然，爱情上的不幸的遭遇对于一个革命者来说是看在眼里的事情，是件可有可无的事情，但是反过来说爱情上的一对革命理想的结合，却是一份点滴力量在革命大海里的小溪。

六月十七日

在无作为中游荡，在吃喝玩乐中消磨时间就是浪费青春，浪费时间。

六月十八日

书是观察世界的窗，在我们的书架上，在我们的桌上，在我们的手中，有多少书呵！但是，书的价值不一样，有的是千斤重量，有的是半两八钱，有的是散发着香味，有的是“没什么香味，有的甚至是毒草”。所以看书要有目的地去选择。不能乱看，谈书人的优点是致力于学，缺点是读“死书”。他不知天下还有其他更理想，更情乐，更生动，更活泼的知识并不全隐藏在书里。反而是在实践中。

六月十九日

千书万书，毛主席的书最珍贵，是当代世界上最宝贵的精神财富。是当代千万种科学的最高峰。

六月二十日

“各国的人民，占人口总数的百分之九十以上的人民大众。总是要革命的，总是会拥护马克思列宁主义的。他们不会拥护修正主义，有些人暂时拥护，将来终究会抛弃它。他们总会逐步地觉醒起来，总会反对帝国主义和各国反动派，总会反对修正主义”。毛主席的这一伟大思想真正体现了历史发展的规律，从这点出发我们必须相信90%以上的人，要团结90%以上的人，要为90%以上的人服务。我在一生中必须同全人类90%以上的人民大众共同命运，而不能时刻关注着个人的得失。

六月二十一日

离开巴音高勒，乘坐火车来到银川市。夜里在外头睡觉。我想我什么时候都应该这样提倡艰苦环境，克服困难，体验最艰苦的生活。

六月二十二日

来到远离两个月多的巴彦浩特，心里格外高兴。巴彦浩特革命形势大好。毛主席的伟大最新指示挽救了长期被镇压的决心把无产阶级文化革命进行到底的革命派，使他们斗志昂扬，继续为捍卫毛主席的革命路线而奋勇前进。北京的红太阳照亮着塞上古城巴彦浩特，毛主席的光辉恩情保护着数千个革命造反派。

六月二十三日

六月六日在这里发生的围攻武斗事件是严重的镇压人民群众的极端错误的行动。毛主席说：“对广大人民群众保护还是镇压，是共产党同国民党的根本区别”。那些在六、六事件中头戴钢盔，手持铁矛，对革命群众进行惨无人道的血腥镇压的人，真使人难以设想，原则上说这是暴徒干事，国民党才能干得出来的起码没有人道的坏事。这是严重的政治镇压。我愤然地抗议，抗议。我激动地感谢内蒙古革命委员会，亲爱的珠海清司令员，以及这里的人民解放军正确处理这次事件。解放了被迫害，被镇压的善良的忠于毛主席的革命群众。我向受害的阶级兄弟，同志们致敬，表示深切的慰问。

六月二十四日

对待六六镇压革命群众的严重事件，我们不需要什么观点和派性。我们需要革命的正义感，需要用毛泽东思想去衡量，需要表明反对或拥护的鲜明态度。我认为不管如何这次事件中是血腥镇压了善良的革命群众，我坚决反对六六六事件。正如同大多数的群众看法一样，我坚决支持在这次事件中遇难的那些同志。人民群众的鲜血不能白流！血腥镇压人民群众的

六月二十五日

参加武斗的大多数人是受了坏人操纵和蒙蔽的，他们是被阶级敌人蒙蔽的，使好人犯了错误。真正的坏人还是一小撮人。我们一定要把革命的阶级敌人同犯了错误受蒙蔽的群众区别开来，分别对待。

六月二十六日

由于一些人不真正按照毛主席的思想办事，不好好搞生产，使国家经济受损失，因此现在市场上供应物品比较紧张。估计我们在物质生活上可能将要遇到暂时的一点困难局面，当然这些比六二年的困难小得多。但是总有一些困难。对此我们必须有足够的认识和思想准备。文化大革命是精神上的伟大胜利，政治上的伟大胜利，这个成绩是无法估计的，是最大最大。文化革命中我们也取得了物质上的伟大胜利，但经济受到些损失。这个损失是有限的，是最小最小最小的。对一个国家来说应该追求精神上，对物质生活上不需要，但不能过火儿地去追求，一个人的精神生活是主要的。我们认为一个革命者，不能以个人生活上的一点困难来探察国家的决定命运伟大政治胜利，我们应该甘心情愿克服暂时的困难，将艰苦奋斗，革命到底。

六月二十七日

我们这里现在有个名叫***的“大人物”，在一些蠢驴们的心目中，在一些糊涂虫们的眼中她简直是了不起，简直是比革命还要革命，简直是神圣不可侵犯。但是在我看来她并不神圣，她虽然有那么一手呼腥风唤血雨，镇群众压革命的毒计，但真正遇到马列主义毛泽东思想的唯物辩证法来进行分析观察的话，不难看出她的货色，我不但不否定她的所作所为，而且也预料到她不久的将来定会垮台的命运。她是一个被革命的风暴卷进来的机会主义小丑，投机取巧是她的拿手好戏，伪装变色是她的唯一本领。虽然由于她的反毛泽东思想的反动阶级本质和肮脏的灵魂破以及政治的需要迫使她登上政治舞台假惺惺地演出了一份又一份丑剧，并给她暂时带来了不可一世的今天，但是她绝对逃脱不掉历史的正义裁判，将来总有一天她自然而然地会垮台，使她成为历史上匆匆而来的过客，昙花一现的人物。

六月二十八日

历史的潮流滚滚向前。她按照马列主义毛泽东思想所指出的流向一泻千里，不可阻挡。“想要阻挡潮流的机会主义者几乎到处都有，但是潮流总是阻挡不住的。”一切阻挡历史潮流的小丑们都被这历史潮流的各派们淹没了。赫鲁晓夫被淹没了，刘少奇被淹没了，一切机会主义者被淹没了。

历史的辩证法如此无情，历史的裁判如此政治。那些阻挡历史潮流的机会主义小丑们在历史上不管怎样张牙舞爪，不可一世，但是最后必然会被历史所抛弃，成为历史上的匆匆来去的过客，昙花一现的人物。

六月二十九日

向来知识分子都是先觉的，这是革命所不可缺少的力量，但知识分子最大的缺点是它的动摇性，软弱性。但，其中一些人都与此相反，他们是马列主义的忠实信徒，从马列主义那里获得了力量和智慧。这些人一经马列主义毛泽东思想的熏陶和革命斗争的实际锻炼，同工农的结合就会成为坚强的革命战士。

六月三十日

坚持真理就是胜利。马列主义毛泽东思想的真理永远存在，你信不有这真理，再大的失败，挫折，艰难面前也不能动摇，不能怀疑，更不能提信“活用哲学”，明知真理在手都失去信心，这是最可耻的行为。“人间正道是沧桑”，而不是什么“世无正道唯中道”。如果是真理，是马列主义毛泽东思想的真理，那么最后的胜利，最后的的笑容是属于你。

在革命的大道上，在生活的大道上许多的荆棘和阻碍，并没有平坦的大路可走。革命是件不容易的事情，企图贪便宜，走捷径是作梦而已，那是坑人的天真幻想。斗争，斗争，再斗争，没有斗争社会就会停滞，人类就要灭亡。没有失败便没有胜利，没有被反革命的暂时挫折和击败就没有革命的最后的胜利。

两年多来的文化大革命的实际不证明了这一点嘛，我们自己的斗争历史不证明这一点吗？革命啊，革命的是命，岂能那么容易呢？阶级斗争啊，斗争的是一个阶级和另一个阶级，岂能是那么简单呢？革命就是斗争，斗争，斗争！……

今晚，我在“庆祝伟大的中国共产党成立47周年晚会”上看到了那些激动人心的表达，我战友们为保卫毛主席保卫毛主席革命路线而斗争的历史性节目以后有了以上的感想也！

七月一日

钟声带来了七一这光辉的节日——亲爱的党成立四十七周年纪念日。四十七年前的今天，我们敬爱的毛主席在上海普通的一间房子里秘密成立了我们伟大的党，自从那时起我们的党在毛主席的领导下数十年如一日为中国和世界的共产主义革命的实现而奋斗。我们党经历了多少艰难困苦的路程，牺牲了多少优秀的人才呀！想到这里我们自然而然地爱戴我们亲爱的党。一切功劳属于毛主席和他领导下的党！

我们的党是光荣的党，伟大的党。她是以当代的人类天才毛泽东为领导的，以当代中国和世界的最先进，最革命的优秀人物组成的战斗的队伍。今日她是世界革命的火线上的先锋队，是反对帝修反解放全人类，实现世界共产主义的突击队。

我从小就在我们亲爱的党的阳光照耀下长大成人，我多么热爱我们的党啊，我永远要跟着毛主席的党走，把自己的一切献给她。我的理想是共产主义革命，我是世界共产主义战斗行列中的一名普通战士，所以我完全把自己称作作为一个共产主义的战斗员，共产主义的党的一员。我在自己的为共产主义而艰苦奋斗的一生中立志要做一个共产党员！这是我组织形式上的最大的愿望和要求！我永远是我党的一个好儿子，好成员！我最爱唱雷锋的一支歌曲向党说心里话：“唱支山歌给党听，我把党来比母亲……”

七月二日

唱支山歌给党听，我把党来比母亲。地生母亲要背叛，跟着党呵得新生。旧社会在地主家，婴儿不知母亲剥削性，共产党亲我来党亲儿，教我革命，教育我成人。唱支山歌给党听，我把党来比母亲……

七月三日

我日夜在读书，学习，在一切空闲时间里，有的人开玩笑的说我这是搞“修养”。谢绝这位同志对我的关怀和提醒。我日夜在学习着毛主席的著作和马恩列斯著作，或者研究着其他革命的文学理论作品。我正在将来的革命斗争和劳动准备本领，我丝毫没有脱离现实的实际，在伟大的文化大革命的急风暴雨式的阶级斗争中学习，以此去指导自己的行动，这一切岂能说我是“修养”呢。说实话我现在这个“修”的“养”的还不够，我还不能严格要求自己，还不能艰苦学习，我学习的差得远了。我今后更需要学习，学习，学习，再学习！

毛主席说：“真正有希望的是想问题的人，不是出风头的人，现在大吵大闹的人一定要成为历史上昙花一现的人物”。这句话有着多么大的意义啊！这是个真理。想问题的人少犯错误，犯了也能改正，而且继续不断地革命到底。而出风头的人，特别是大吵大闹的人，在历史的一瞬间里他似乎比“革命”还要“革命”，轰动一时，但不过几天就会走向自己的反面，自己垮台。

回顾我从去年七月份到今年四月份参加文化大革命的两派斗争中，就扮演了这种大吵大闹的人的角色，几乎哪里有大声辩论，吵闹就少不了我，平时也突然发了似的过火行动起来……，这样的结果不但没有为革命献出什么力量，反而伤了带有不同观点的同志们的心，浪费了不少可贵的时间，本来没有毛泽东思想的观察，分析，而且现在糊里糊涂地到处狂胡乱叫，所以也看不到问题的本质，眼光短浅，说话没有理由，没有根据，现在想起来可以说是个教训。

我应当做一个想问题的人。斗争是需要，革命是需要，但是不要大吵大闹。大吵大闹最没水平，最没出息。

七月五日

“想问题的人”，他努力学习马列主义毛泽东思想，读活书。在斗争中实际中学习，真正领会马列主义毛泽东思想的精神实质，变成自己的东西，以此作武器，时刻不离手。

“想问题的人”，他对待一切事物及其他千变万化，能有运用唯物辩证法来全面地，客观地去分析。适应党的观点，从中找出自己应寻求的真理，坚持那个真理。

“想问题的人”，他对待好的坏的一切，总是自己独立思考，敢于批判，自己辨明是非，支持对的，反对错的。提倡历史唯物主义，反对奴隶主义，反对糊涂主义。

“想问题的人”，他看清方向后誓死捍卫真理，不管怎样受挫折，总是相信真理的胜利，不动摇，不被叛，坚持到底。

“想问题的人”，他一切从革命的利害关系去想，而不从自己的个人得失去想，为了革命不管个人。

“想问题的人”，胜利和失败中同样地发扬正义感，看到将来，严格掌握其分寸，不左，不右，正道前进。

“想问题的人”，数十年如一日，想着自己的革命理想，死保着革命理想，不论在困难中，不右，不左，正道前进。即使在死亡中也想着革命理想，眼睛向前看，向远处看，掌握着大方向，实现着大事业。

“想问题的人”，不鄙视他人，不压倒他人，他虽是相信这伟人革命论，要进步，要变化，要前进，预料着他人的美好的明日，能够团结可以团结的一切人共同事业。

七月六日

“想问题的人”，多么高尚啊，只有会做“想问题的人”，才有希望做一个革命者。

七月七日

想做“一个高尚的人，纯粹的人，有道德的人，脱离了低级趣味的人，有利于人民的人，他才是一个真正的人”，只有首先做到“想向上的人”才有希望也。

七月八日

“公”字是共产主义内容的最集中的概括。“私”字是犯共产主义社会里一个人学习什么也视为私人的名利。他学习文学，医学，哲学。总是从提高创造记录以便使个人向上爬来考虑，而总是不从怎么让这种学习的东西好为人民服务，为人民贡献来考虑。还有当官，剥削人，压迫人这都是为一个渺小的个人出发，而不顾其他千千万万的人。所以我认为广大人民群众的为自己的个人，这是共产主义同非共产主义的根本区别，是革命的同反革命的根本区别，是马克思列宁主义毛泽东思想同反马列主义毛泽东思想的根本区别。“公”字的道路是革命的道路，“私”字的道路是反革命的道路。历史的发展规律就是“公”字的规律，就是为人民群众的规律，有利于广大人民群众就是符合历史发展规律，否则就是不

符合历史发展规律。将来的世界是“公”的世界，将来一切为了“公”。资本主义是为了私人，那些压迫剥削人的私人。因此我这一生中不论搞什么，必须以这个“公”来作最高原则和目的，要为“公”是为公的公就要，只为“公”的话才能做，只要为“公”，我能供出自己的力量智慧和鲜血生命。

只有“公”就是革命，就是理想，就是希望，就是大方面，为“公”的那才是知识，那才是学问，那才是才能，那才是科学，那才是生命力，趣味和生活。有“公”便有了青春，有了生命和幸福，有了愉快，有了意义，有了价值，有了名利——公的名利就是个人的名利。

离开了“公”，不为“公”，那什么也是自由的，没用，是胡作非为。

为“公”啊，为“公”！永远想着“公”永远和“公”在一起，永远为着“公”，这就是我的一生的最高原则。

七月九日

“书，不读不行，读得太多了也不行”。毛主席这个辩证法的新发现，不论是读书，其他一切事物几乎都有这种规律。它没有吧，不行，太多了也不行；例如，吃盐，放得少了不行，太多了也不行，凡不吃饱不行，吃得饱了也不行；鸡蛋和牛奶是营养价值较高的食品，你每天早晨喝一杯牛奶，每天吃一个鸡蛋，感觉好像很有益处，可是你喝它几杯，吃几个，太多，不但感觉不好，而且很坏。走向自己的反面。这些例子都是吃的，其实，其他什么都这样，道理是一样的。

读书，你不读就学不了各种科学知识，读得太多了，就脑子糊涂了，成了书帮子，死教条，老跟在人家后头，没有那种新生的创造精神和闯劲，失去敏感，失去活力，走向自己的反面。所以，读书不能太好，要重点地读。读的懂，读了就结合实际斗争和生产要运用。运用中要观察，比较，总结，从而发现新的东西，把它向前推进。

七月十日

我认识到：世界上的知识只有10%在书本上，在有些人总结出来的文字理论上，而90%则在社会上，在人民群众中，在生活中存在。无论是哲学，文学，物理学，哪个也是如此。例如：唯物辩证法到处都有，活生生的，人民群众都是懂得它的，他们对待什么事情，说出话总是把好与坏，优缺点分着看。总是把对立的两个面和本真一挖出来，这就是活生生的唯物辩证法。只是他们没有把自己的辩证法用文字总结出来于书本上罢了。还有民间文学，医、物、仅学的土办法很多，这都是在人民群众中的无穷无尽的知识。所以说最有学问，最有知识，最懂得科学的是人民群众，而不是那些知识分子君子。

读书人，往往走向自己的反面，成为教条主义。原因就是他们只识那些书本上的知识，爱讲文字理论，而看到学习中90%的存在于社会，存在于民众，存在于生活中的知识。他们是睡眠看不到它，他们是君子，看不起它，脱离它那岂能出兵呢？

我的学习主要应该学习这90%的活的知识。书本上的，文字上的知识要学，但不能只靠它，学一点就行。而且，学这一点也应该加以批判地去学习，我们应该深入社会，深入生活，结合民众，用唯物辩证法的万能钥匙来开，在那里的真正的知识仓库，把它写出来献给人民，献给革命。这才是算得一个真正的学者，科学者，真正的学者和科学者，应该是这些书本文字知识以外的知识的学习者，归纳者，总结者，文字理论论者，这就是创造、发明，这便是进化论的革命者。

七月十一日

这些天来我读着毛主席未公开发表的著作，心里感到幸福和愉快，我格外格外地想念着我们的毛主席！在读的过程中我发现我们年边的领袖——世界革命的导师，今日的列宁——他老人家正在以青春的精神，发展着自己的举世无双的伟大思想，特别是主席反修斗争开始以来他老人家的思想有了一个飞跃。近年的著作中所表达的伟大思想更加丰富了。他老人家在早期的著作中所表达的伟大思想，敬爱的毛主席啊，今日的马克思，向您老人家恭贺，向您老人家祝贺，您的伟大思想和学说的飞跃发展，是全人类的最大利益的实现，是全人类的最美好的理想的实现。

我——作为您老人家的年轻战士的我，一定要系统地掌握领会您的全部伟大思想，活学活用！

七月十二日

有了毛泽东思想就有了一切！没有毛泽东思想一切都等于没有！

七月十三日

在政治理想上我要争做激进派，提倡枪杆子里面出政权，好斗好战，热衷于斗争，信仰斗争的哲学。在与人际关系上（当然有阶级性）要仿效温和派，富有阶级感情，心胸广大，不吵不闹，不抱私心，有革命的人道主义，不抱私“仇”，不进行打击，不做让人痛心的事情。有正义感，公道正直。（这一切都有阶级性）

七月十四日

做人是件不容易的事情，做个真正的人，做一个革命者必进行毕生的自我改造，要付出更大的个人代价，这代价就是斗争，学习改造。

七月十五日

我现在需要向自己提出警告和建议：不要像其他一些人那样追求物质生活。生活上的腐化将会导致理想上的退却。

七月十六日

毛主席说：“我们是马克思主义的历史主义者，我们不当判断历史，从孔子到孙中山，我们应当给以总结，永继这一个珍贵的遗产！”这是我们今日值得引起注意的一个问题呵！我们有些同志不是历史主义的看问题，他们割断历史，否定历史上的一切，唯心主义的去看。这个没有毛泽东思想水平的表现。

七月十七日

历史是在光天化日之下写下的，历史是谁也改变不了的，历史辩证法又是无情的，被颠倒的历史总是在被颠倒过来的。那一批党内叛徒，在蒋介石的枪口下为了保住一条狗命便首肯出卖自己的事业，到后来都把自己装扮成被颠倒的革命家，企图颠倒历史，但曾几何时原形毕露了，此类事情很不少，这都在证明，历史是不可颠倒的，不可改变的。

七月十八日

“闲谈”宝贵。闲谈，中午在闲谈，吃上在闲谈，一有空就三五成群，闲谈那些个人生活问题。这种闲谈是最害人的，它浪费人们宝贵的时间，它吹散人们的精力，它全拾懈人们的斗志，它的害处呵实在不少。有些人就爱这种闲谈，他的青春已在闲谈中消磨过，它的一生呵，也许全会在闲谈中逝去，或在扑克牌，棋盘上消失。这是多么大的损失呵！我不能闲谈，我不需要闲谈，我谈就要谈国家天下大事，我在闲谈的时间里应多学习，多劳动，多锻炼，为人民服务。

七月十九日

爱情时间就是延长青春，延长生命。宝贵的时间属于我们伟大的事业而不是属于个人。

七月二十日

“专政是群众的专政”（毛主席语），是群众对阶级敌人进行专政，而不是这一部分群众专另一部分群众的政，更不是这一派群众专哪一派群众的政。这种资产阶级派性专政就是资产阶级的专政。必须是决定予以抵触和斗争。

七月二十一日

打砸抢抄是愚蠢的行动，只有愚蠢的人们才于这些愚蠢的事情，你若有毛泽东思想，若有真理为何不相信用斗取得最后胜利呢？“砸烂”，往往是砸而烂的，你能砸烂人家的东西，岂能砸烂人家的思想呢？

七月二十二日

人的生活包括改造社会和改造自然两，还有一个主要内容是人与人之间所发生关系。所以一个人应该很好地解决人与人之间的关系，其中有：与阶级敌人的关系，与同志之间的关系等等。对敌人狠，对同志要和，要有度量，能团结绝大多数人一道革命，那怕在性格上，日常生活中尽量避免损伤同志的感情。那种跟谁也得不到，一天到晚吵吵嚷嚷那，争论不休的作风简直要不得。

七月二十三日

有理也好，无理也好，先动手打人就是犯罪行为。很难理解：有的人怎能举起手打同志打自己的人呢？他的阶级感情跑到哪里去了，他的心怎么那么狠呢？对阶级敌人，当然，要“以牙还牙”，可是对自己的同志应该做到打不还手，骂不还口，要用真理来说他，这才算得上一个有道德的人。

七月二十四日

水深波浪平，真正有马列主义毛泽东思想的人不出风头。有些一知半解的人才到处吹牛，自夸。现在在我刚刚开始学习马列主义毛泽东思想，是个一知半解者，千万要注意这一点。

七月二十五日

时间过得多快呀，一起一睡便一天过去了，一穿夏衣再穿棉衣一年便过去了，所以对我们来说每一天都是可宝贵的，应该不闲着去过。闲着没事干，浪费掉它便浪费自己的生活。每天应该学到一点东西，做一些事情，不要白白过。

七月二十六日

写大字报这是很有意义的事情。毛主席说过：“大字报是一件新式武器”。大字报是文斗的最好形式。我写大字报是斗争，是对文化大革命的一滴点贡献，是用实际行动保卫毛主席的革命路线，保卫毛主席，宣传毛泽东思想。写大字报又是我最好的学习和锻炼机会。我应该多写大字报，不怕麻烦。写大字报当然是革命的斗争，那当然是一件不容易的事情。需要代价。

七月二十七日

今天我找到盼望已久的油画——“毛主席去安源”高兴极了，我将它贴在学习桌前墙上，每时每刻看着。这个画画得多好啊，将毛主席青年时代的伟大形象活生生地摆在我的面前了，我们敬爱的毛主席穿着长袍，手持雨伞走向安源啊，红太阳照向安源。毛主席青年时代那“改造中国与世界”的理想，那天才的思想，那些坚强的革命气节永远是我们学习和效仿的榜样。

毛主席啊，毛主席，我多么想念您老人家。

七月二十八日

热爱毛主席的伟大，崇拜毛主席的天才；信仰毛主席的思想，效仿毛主席的实践；忠于毛主席的路线，献身毛主席的事业。

七月二十九日

我现在正在艰苦地学游泳，这不是我个人的玩乐，而是将来参加埋葬帝国主义战斗的战略义务。我要建设大东江河，解放参加解放全受苦人民的战斗。我一定要下决心学游泳。再说它也是我为革命而锻炼身体的大好机会呀。

七月三十日

今天传来激动人心的好消息，毛主席728制止武斗的最新最高指示下来了。毛主席啊，毛主席，战士向您感谢，您这是文化大革命的一贯思想和伟大战略部署，是保护广大人民群众的最有力措施。让毛主席的教条指导我们吧，让那武斗歪风鬼去吧！要文斗不要武斗，正正规规搞好文化大革命！

七月三十一日

毛主席赞成我赞成，毛主席反对我反对，毛主席号召我响应！

八月一日

今天是中国人民解放军建军四十一周年纪念日。解放军是我们伟大领袖毛主席亲手缔造，由林彪副主席直接指导的举世无双，天下无敌的人民的子弟兵。

文化革命中我们的解放军进行了左支工作，保卫毛主席，保护人民群众，出现许许多多激动人心的可泣可歌的丰功伟绩。中国人民解放军向中国人民是有着鱼水情的感情，对于人民的态度简直是热情，真挚，它是世界上最好的军队。例如：在支左工作中有时出现一些武斗现象，我们的解放军战士打不还手，骂不还口，哪里见过这样的好军队呀！

中国人民解放军万岁！我们的长城永远站立在世界的东方！

八月二日

当前文化大革命是人类历史上从未有过的伟大群众运动，是急风暴雨的活生生的阶级斗争，是真正的革命的。这里如果不是好好参加运动，不关心它，那将是一生最大的后悔矣。即这是我们一生中难得的最好的锻炼成长的机会呀！

八月三日

斗私批修简论

毛主席向我们发出号令，他老人家号召我们，“要斗私和批修”。

“要斗私和批修”，这是保证社会主义过渡到共产主义的战斗纲领，是过渡时期的政治思想。战线上的基本任务，是无产阶级专政条件下革命的基本内容，是加强无产阶级专政，防止资本主义复辟的根本方针。“私”和“修”字是在无产阶级专政条件下的重要敌人。批“修”就是要批党内走资派。斗私就是要斗形形色色的非无产阶级思想。只有斗私批修才能防止资本主义复辟，防止出现修正主义者。

斗私批修是根据社会主义经济和上层建筑的矛盾，阶级斗争规律，培养无产阶级革命事业接班人的需要提出来的，当前来说世界根据文化大革命形势深入发展的客观提出来的。

不批修不行，但光批修不斗私更不行。公有制的所有制必须由具有公字观念的人来掌握。

斗私批修是伟大时代的要求，是伟大历史任务的需要。在无产阶级专政条件下革命的任务就是斗私批修。要不要斗私批修是一个革命者的标准。革命者就爱革命，革命就要斗私批修。

八月四日

批修是革命，批修是件不容易的事情，斗私也是革命，斗私更是一件不容易的事情。在某种程度上来说，批修好批，斗私不好斗，批修是革别人的命，斗私是自己的“命”，革命革到自己的头上，所以就难斗啊！

私字是万恶之源！自古以来所以有阶级压迫，阶级斗争，所以有人与人之间的种种矛盾，就是私字公字之间，私字和私字之间的斗争。剥削人，压迫人的罪恶之源岂不是四字吗？私字啊，私字，先使人反动化，腐朽化，愚蠢化，法西斯化，它使人离开人间的一切美好与正确。

要改造主观世界和客观世界，就要堵塞私字这万恶之源！首先要从我们自己的身上清理出私字，成为一个纯粹的人。人应该是一个斗私的一生啊！斗私的一生便是革命的一生，战斗的一生，光辉的一生，有意义的一生。能斗过“私”字的英雄，那才是真正的英雄，有了“私”字，就等于没有一切，没有了“私”字，就等于有了一切。

八月五日

两年前的今天，我们敬爱的毛主席发表“炮打司令部”的大字报。这是射向以刘少奇为首的资产阶级司令部的威力无穷的炮弹。是一声开辟人类历史新纪元的伟大“号炮”。巴黎公社一声巨响，作了无产阶级夺取政权的尝试。十月革命的一声巨响，创立了世界上第一个无产阶级专政条件下的大革命。这是保证我们亲爱的社会主义祖国和可爱的中国共产党千秋万代永不变更的一天，这是有着伟大世界意义的一天。

念着毛主席的大字报，似乎有您老人家意气奋发，斗志昂扬，手持毛笔，指挥着千万红卫兵和造反派冲锋陷阵。毛主席啊，我们的大将和统帅啊，您老人家开炮吧，向着旧世界开炮吧，我们无限忠于您的革命人民也和您老人家一齐向着旧世界开炮，用我们的炮声迎来新世界的。

八月六日

我看一个作品，不管文艺作品还是其他，它的成功与否，关键在于选择的题材，题材是否革命的，是否作用大，是否有普遍性，是否引人注目。如果题材是平平淡淡的的东西，即使你再加思想性和艺术性还是不行的。斗争的火花我是相信，题材的火花我也相信。所以说，生活是决定的因素，没有生活就不能有题材和作品。“人心的对比”，是力量的对比。根据这个道理，可以说：“人们说教义的大小，便是作品作用的大小”。人们在某个时候某个条件下，对某一件事物和事情特别注意，关心，感兴趣，作者应该通过实际生活和斗争，发现那种事物和事情，加以文艺化的反映，这样便立即会得到人们的注意，起作用。反映时若能真正用马列主义毛泽东思想去加以分析综合，那就是成功。这就是“时代的声音”，“人民的声音”。这才是人民所喜闻乐见的。至于其他艺术技巧其实都是次要的。

八月七日

感情用事行事均是唯心主义。对待人和事物，进行评价时许多人连我包括在内总是感情行事，对自己好，对自己有利

的，就是好的，就是对，就是真理，否则就不然。这样就不利于从客观上，全面地去进行马列主义毛泽东思想的公正裁判，就不能分清真正的好与坏，是与非。在文化革命中，对待一个当权派或组织也是这样的例子偏多，人只要这样从“对我”如何来作出出发点，用“私”字去评价世间一切，就会背离真理，就会迷失方向，就会成为蠢人。我们应该用唯物主义精神来对待一切，全面地客观地进行分析，本质上是好的，对革命有利对人民有利，合乎事物发展规律，有真理，那就是好的，对的。哪怕他和你本人针锋相对也罢，也应承认那是真理，有真理。不能感情用事，而应以真理行事。

八月八日

一个辩证唯物主义者对待一切应该有独立思考，应该用马列主义毛泽东思想去衡量衡量，再表示态度，不能盲目服从，盲目表态。

八月九日

世界上的一切事物，均有它的“度量”“限量”，超过这个限量就会发生反面作用，走向反面。这恐怕也是辩证法的一个真理。例如：饭菜里不放盐不行，可是放多了又不行；不谈话不行，谈得太多了，害死人。毛主席说了，人不睡觉不行，睡得太多了要得病。吃药也这样。无论什么事情都有这种适当范围内有益而过度范围内有害的现象。所以我现在还很怀疑，这当然是普遍规律，这样批示：不锻炼身体不行，锻炼得多了也不行。很多时候应锻炼，但有时也可以休息休息才能起到健康的作用，你根本不休息天早晨炼，我看效果不一定如前者好。人们往往讨厌“两天打鱼，三天晒网”，我看三天晒网不行，可是两天晒网是必需，三天打鱼，两天晒网是科学的。五天打鱼，五天不晒网是不可能的，不符合事物发展规律，那网也是使用不上五天的。什么事情也都是这个辩证道理。你不能过度，一过度就会走向反面。

再说，世界上一切事物均有它的“新鲜”阶段。失去这个“新鲜”，成为“老牌”就不那么是人民所欢迎了。例如：吃肉是好的，几天吃一次可新鲜，可香了，但天天吃肉，就不觉得那么香了。亲人之间（当然有阶级性）几年见一次面可亲热了，但天天在一起就不亲热反而要闹不到一块儿；公园是美丽的地方，过些时候去还可以，经常去就不那么感觉好了。什么事情都是这样。太经常了，反而起反面作用。

这些都是辩证道理。要认识这个普遍道理，我们应该按照这个道理，解决这个普遍的矛盾而努力。

八月十日

我想，我一生的理想之一是：尽力以文学的形象体现马列主义毛泽东思想所指示的真理，使我们的革命人民能够从文学形象中得到马列主义毛泽东思想的灌输。如果我能实现这种理想，能作出大海里一滴水的贡献，那我甘心情愿为它付出一生的代价——我艰苦而辛勤的劳动。

八月十一日

以宣传毛泽东思想为义务，以文学劳动为人民服务。这是我的志愿，如果人民需要我的话。

八月十二日

我啊，虽然在炮火连天的战场上战斗冲锋，在平凡的岗位上应该是一个勇士，在我们革命的万能机床下应该是一个平凡的但却是个永不生锈的螺丝钉。

八月十三日

我多么欢乐啊，生活在伟大的时代，战斗在毛泽东的旗帜下，怎能不感到幸福和自豪？在我稚气的脸上哪能找到一星半点忧愁的阴影？

八月十四日

在以毛主席为首的无产阶级司令部为我们全党，全国，全军，全体革命人民的唯一的领导中心，再不能有第二个中心。现在泛滥的一种所谓“多中心”论是个反动的谬论。我永远跟着这个司令部，干革命。

八月十五日

在中国，在内蒙，在我们的机关单位是只能树立毛主席的最高权威和林副主席的崇高权威，任何个人都不能把自己当作毛泽东思想的化身，树立他个人的权威，把自己凌驾于毛主席和林副主席之上或与此并列。不管是谁，你的所作所为是符合马列主义毛泽东思想，群众就服从你，如果不符合，那就抵制，反对。

我一生中永远忠于毛主席，忠于马克思所创立的伟大事业，为了毛主席，为了这个伟大事业，我献出自己的一切。在任何艰难困苦和曲折遭遇中，在任何敌人面前我头可断血可流，决不肯叛毛主席，决不肯叛伟大的革命事业。谁要是出来像赫鲁晓夫反对斯大林那样，否定和反对毛主席，我就不耍命地和他拼，坚决反对他，保卫毛主席。什么人要是不按马列主义毛泽东思想办事，我就揭露他，批判他，斗争到底，捍卫马列主义毛泽东思想。大事上是这样，小事上也仍然这样。这是我终生坚持的原则和基础。

八月十六日

我应该每天否定自己，每天改造自己，每天向前迈进。我是个知识分子，又出身在剥削家庭，我的身上有很多非无产阶级的东西，特别是小资产阶级思想到处暴露出来。我自私，易得患失，容易动摇和妥协，稍遇挫折便会悲观灰心；我有狂热病和幻想病；我的言行不一致，表里不一，主观主义严重。这一切都是要不得的。我要革命，要为人民服务，要为伟大理想而奋斗，必须克服这些先天的劣根性。

当然我不是全盘否定自己，充满那种自卑感。

八月十七日

今天是我来到这阿拉善左旗——巴彦浩特工作六周年。六年来我在人生道路上走完了多少里程，得到多大的进步和变化啊！但是回顾起我也走了不少弯路。这就是这六年间没有很好的学习马列主义毛泽东思想，特别是毛主席的著作，没有更好地和工农相结合，大部分时间消磨在城镇地区的办公桌上，办公，读书上。只是后两年在文化革命的急风暴雨中度过的。

我想，现在应该停止走弯路的时候了。我真正的革命人生道路不在于巴彦浩特城镇的马路上，而在于农村田间的小道上啊！文化革命结束，精简机关时我应该自绝，高高兴地离开这城镇，走向农村。当个普通的农民或工人，一手拿锄头，一手拿笔，同工农结合，在火热的劳动斗争中去发挥自己的力量和智慧，改造自己，为革命歌唱，为人民而劳动，为党而奋斗！

八月十八日

今天是毛主席第一次接见红卫兵的光辉“8.18”两周年。从广播里听到人民日报纪念社论以后很有启发。这次文化革命中的红卫兵运动也是象“五四”那样的青年革命运动。这是必须肯定的伟大运动。但是要使这个伟大运动继续正常地健康地发展必须走和工农兵相结合的道路。红卫兵运动只有和工农兵运动结合才能取得文化大革命的胜利。红卫兵和革命学生，革命知识分子同工农兵结合这是历史发展的要求和时代的要求，是一条必由之路啊！

八月十九日

工农兵万岁！向工农兵学习，和工农兵结合！实现无产阶

八月廿日

这世界上只有马列主义毛泽东思想的学说才引导我走上共产主义现实，引导我走上革命道路。因为它是科学的真理，我100%地相信它，崇拜导师们的天才的论断。我的理想之来源就在于此。所以我的共产主义理想和人生之目的是死也不会改变的。我忠于党。

八月廿一日

这世界上的人，如果第一不为渺小的我——私人利益影响，第二不为出生的阶级——显然是非无产阶级的偏见的荒谬，而相信人类头脑的单纯地思考出的最伟大的，最崇高的科学真理——马列主义毛泽东思想，那么他才会成为一个真正的革命者。这样的人无疑是高尚、纯粹、有道德，脱离了低级趣味的有利于人民的革命者。

八月廿二日

前天，苏修及西欧的修正主义伙伙们悍然派大量的飞机坦克，地面部队军事占领捷克斯洛伐克社会主义共和国的全部领土。由于捷修头目的采取不抵抗的投降主义，入侵者一夜间便达到了其野兽。这对捷克无数人民是灾难，苏修的坦克

飞机的隆隆声惊动着他们的和平生活，踏碎他们亲爱的国土，这捷克一个国家的起码的大耻辱。它如同一百年以前八国联军侵入我国北京一样。

修正主义先生们的原形暴露得没有余地了，它简直成了法西斯“社会主义”，法西斯“国际主义”了。竟然干这种只有希特勒，拿破仑、约翰逊才能干出的事情。而捷修也到了如此可耻地步。

八月廿三日

我同情受压迫，受侮辱，受侵略的捷克人民，我的心在捷克的布拉格。我的心和捷克人民一样愤慨，在燃烧。我的捷克无产阶级兄弟姐妹们，一切革命同志们，重新举起你们那光荣的红旗，拿去英雄人员的步枪，集结在血染红的地上，向修正主义宣战吧！打倒希修，打倒捷修，还你们无产阶级江山吧！除了这个再无活路啊！

八月廿四日

修正主义是革命的叛徒，所以它是更可耻，更毒辣，更凶恶的反动派，它会干帝国主义所不会干的事情，反修斗争同反帝斗争一样重要。

八月廿五日

打倒修正主义，埋葬帝国主义。

八月廿六日

姚文元同志写的“工人阶级领导一切”的文章发表了。他在这篇马列主义毛泽东思想水平相当高的文章中传达了我们的天才领袖毛主席的关于加强工人阶级领导的最新指示。今天这塞上古城巴彦浩特上万名革命人民热烈欢迎毛主席的这一伟大最新指示的发表。毛主席真是天才地把握住了世界历史发展的逻辑，把握住了阶级斗争发展的规律。在文化大革命时期他老人家佩带红卫兵袖章，身穿绿军装，以青春的姿态意气风发，发动了伟大的红卫兵运动，使红卫兵起了震撼世界的某种先导运动，而文化大革命发展到争取全面胜利的今天他老人家又发动着史无前例一场伟大的工人运动。这样由知识分子打先锋，由工人阶级指挥，由亿万农民冲锋，文化革命的大军是举世无双的伟大大军。现在掀起的这场伟大工人运动，使我欢欣鼓舞，斗志昂扬。伟大的工人运动万岁！革命的领导阶级——无产者万岁！

八月廿七日

姚文元同志的“工人阶级领导一切”一篇文章写得何等好啊！他真不愧是我国当代年轻有为的马列主义毛泽东思想者，他对毛主席的思想领会很深很活，能用毛泽东思想解释世界，解释很多现代问题，也能处理很多问题。他不是个文艺批评家，而今在哲学文化大革命中作出了这么大的贡献。我应该向姚文元同志学习。

八月廿八日

同工兵结合，用工人阶级的面貌来改造我们的一切，是时代的要求，是历史发展到今日赋予我们的任务。我要把自己——生在剥削阶级家庭而又是个走来“三门”的知识分子——改造成一个真正的工人，进行自我无产阶级化。

八月廿九日

如果我们不在农村或工厂里去，当个农民或工人，去和工农结合，又能坚持马列主义毛泽东思想及其他业余之艰苦学习，那就不得了，那就能理论联系实际，能学到真正的话的知识，能成为真正的革命者。

八月卅日

我想，要真正达到自己的理想，非当工人不可，非到农村工厂不可，非同工农结合不可。这是真正的革命人生道路之必由之路。如果没有这样的经过，那我一辈子也出息不了，改造不了。对人民做不出什么。

八月卅一日

我衷心地希望运动结束后，在精兵简政中到一个农村或厂子“安家落户”，最少几年，好好地结合，好好地改造，好好地革命。

九月一日

我应当积极地生活，而不是消极地生活。我生活在这样一个伟大的时代，伟大的国土，伟大的事业中是无可悲观失望的理由，是无可消极沉默的理由。我要睁开眼睛观望这像朝阳一般上升的社会主义祖国和起来战斗的世界，看看我们人民的每一颗幸福的笑脸，这是多么一幅令人兴奋，使人鼓舞的景象啊，这就是我今天所处的环境和条件。所以我应该高瞻远瞩，心胸开阔，以此为自己的骄傲和自豪，以此为自己的幸福和幸运。我不能用个人的那一点困难或受害，不幸来代替它们，来蒙蔽自己的眼界，陷入到消极和悲观之中。如果这样我便成了一个鼠目寸光的政治庸人，那就谈不上革命了。

九月二日

“要斗私，批修”！斗私，斗私，再斗私！

九月三日

要把我这个人，同国家，世界，阶级，同人民这一切伟大的整体比较起来，是显得多么渺小啊！简直看不到眼里去。这是实在的，个人只不过是大海里的一棵草而已。所以要问：我究竟要那个伟大的整体呢？还是要这个渺小的个人呢？我想，这世界上再没有东西比私人及私人利益所渺小不过的了，它比原子，粒子都渺小。一个要革命的人是不应该把这渺小的私字看在眼里的。所以只要你革命，个人的那一点受害和不幸是无所谓的，该怎的就怎的，索性任凭损伤和牺牲。

九月四日

新革命委员会召开大会作了“揭开阶级斗争盖子动员报告”，深受群众的热烈鼓舞欢迎。我听了以后也很感动。革命啊，她是新生的红色政权，她是属于我们全体万万多革命人民的。毛主席说世界百分之九十以上的人民群众总是要革命的。同样道理，我们90%以上的革命人民是从良心上，从内心里热爱和拥护革委会的，因为革委会是属于他们的。不论哪一派群众组织，大多数人是拥护革委会的，反对革委会的只是一小撮真正的阶级敌人，而不是哪一派群众。大多数群众是先天地热爱革委会的，那种认为某一派是拥护革委会的，某一派是反对革委会的笼统说法不符合主席思想。群众相信革委会，革委会相信群众。要让群众相信自己，革委会也必须相信各派革命群众组织中的绝大多数群众。今天的大会上群众如此感动的鼓掌，呼口号，说明了以上论点。某个人不能是革委会的化身，某个人的缺点错误，甚至是坏事，都是属于他个人，它毫无损害于革委会的光辉荣誉和在群众中的威信和权威。革委会好，革委会就是好！革命人民热爱革委会！

九月五日

原康妻，人委机关斗私批判阶级斗争分子的学习班今日开始。我决心积极地参加，为她的成功，为她的胜利而奋斗。

九月六日

很多人认为，个人利益和整体利益是一致的，二者是个整体。我看不是的，整体利益和个人利益，即公和私不是一个整体，而是对立的，如果说二者是统一的，那么只能是对立的统一。每件事情，对私有利，则对公有害，对公有害，则对公有利，二者必居其一。公和私不能和平共处，只能说“整体利益中有个人利益”，“得到整体的利益便是得到个人的利益”等等。这都是不符合共产主义革命学说的。实际上这仍然是为私的极其阴险的。试问，你这样争取包含个人利益在内的整体利益，说来说去不就是为了你那个人的利益吗？公和私总是相互斗争，相互排斥的，不是公战胜私，便是私战胜公。公战胜了私，便是进步的，私战胜了公便是落后的，反动的。为“公”则必然要牺牲“私”，舍“私”不牺牲，不舍“私”则根本谈不上公。公的利益是排出私的利益代价换来的，彻底排出私那他是彻底公字者，即共产主义者，若把“私”排出一半儿，那他是半截子革命者，若一点也排不出私，那显然是非革命或是反革命。一个共产主义者，是没有任何考虑个人利益之余地。

九月七日

西藏和新疆革命委员会同时成立。这样全国除台湾省外，各省市，自治区革命委员会已经全部成立。祖国山河一片红，革命委员会旗帜遍全国，中国赫鲁晓夫刘少奇在中国搞资本主义复辟的修正主义美梦已经破产了，帝修反企图使中国和平演变的美梦已经破产了。我们亲爱的祖国更加革命化，更加强盛，站立在世界的东方。祖国的无产阶级政权万岁！

九月八日

要破私立公，要斗私保公，要舍私为公！为公为公再为公！

九月九日

一种新生物出现，开始我们往往不认识它，理解它，有时理论上理解了，但在具体中，特别是涉及到自己私人身上便成糊涂了。这是什么原因呢？前者是由于水平问题，后者是由于粗心杂念问题。这都是局限性。例如：当前这精简机构问题，我们知道它是革命之必需，但想到自己将会被精简就有些想不通了。这就是私利之影响。要革命必须突破这种局限性。

九月十日

我是非常热爱工人阶级，贫下中农，同情一切劳动阶级。但是引我走上共产主义道路的决不仅仅是这些感情上的原因，而是马克思列宁主义毛泽东思想的教导。因为我从小在社会主义制度下长大成人，在共产党阳光下受教育，我自然而然地学习了马列主义毛泽东思想，相信了这个人类最崇高的最伟大的科学道理，懂得了人类社会发展的规律，于是共产主义革命成了我一成不变的理想和不移的信念。我想所有共产主义者也是同样的。当然引导人们走上革命道路的也有某种阶级感情，例如：贫下中农就是从他们的阶级利益和阶级感情出发，坚决走社会主义道路的。不过不全是这个感情上的原因，而是对马列主义毛泽东思想的学习，了解，信仰。

九月十一日

西班牙作家塞万提斯创造了他那时代的一个典型“唐·吉珂德主义”；我们的鲁迅创造了“阿Q主义”。这都是时代的典型。那么我们这个时代谁应该创造出怎样一个有普遍性的典型呢？我们应该为此而努力。我们时代的典型就是雷锋式的人物，以及其他还有很多。我们应努力创造他们的较完整的典型。还有反面人物的典型，如修正主义者，和平主义者等等。在现实的作品中我们也应该预见到将来的共产主义社会的情景，经现在的人们塑造出那共产主义社会的形象，给他们树立学习的榜样，这种理想人物的典型之塑造是有重大意义的。

九月十二日

一个革命者应该时时刻刻心胸开阔，总要从全世界全国的大局着想，总要从共产主义未来的远处想。而不能一天到晚鼠目寸光，光看一块地方，追求那些小事，成为庸庸碌碌的事务主义者。如果这样那他一会高兴，一会悲观，一会热情，一会消极。一切都不正常。

九月十三日

今天我随学习班的同志们一起去“庙前梁”大队参观。在那里我们参观了旗队开展三忠于活动情况，参加了忆苦思甜大会，吃了“忆苦饭”“思甜饭”，又在贫下中农中进行访贫问苦，又参加了打场劳动。今天一天的受教育比前十天在办公室里坐着学文件所受到的教育还要多。

九月十四日

辩证唯物论者的“适应性”最强。因为他懂得事物发展的辩证规律，所以能理解事物的不断变化和否定之否定的更新。不论在阶级斗争，生产斗争中他都紧跟得上，不断发展的新形势，“突变”“飞跃”中不感到突然，在革命的转折点上不掉队。他把否定之否定规律能运用到客观上，也能运用到主观上。他突出直前。

九月十五日

学习毛主席著作要用到客观上，去用主席思想观察，认识客观事物，改造客观世界；同时要用到主观上，对待自己，革自己的命，一次要求自己。例如：学习“为人民服务”，则要作为为人民服务的事情。光在客观上用，不在主管上用，那就成了“对人是马列主义，对自己是非马列主义”的几头革命派。这样是革命不革命的。

九月十六日

人类在这世界上生活，他们进行劳动，进行斗争，即阶级斗争，都是为了自己的生存。被压迫阶级要生存，压迫阶级不让他们生存。或不许他们很好地生存，于是就有反抗，就有阶级斗争。革命的人们要革命，盼望共产主义社会，这都是为什么呢？为革命而革命吗？为共产主义而共产主义吗？不，总的仍然是为了生存。因为用革命来实现共产主义，就会出现没有压迫，没有剥削，没有阶级的社会，这样人类就会更好地生存。我这种哲学观点是自己学到后发而概括得究竟对不对？究竟符合不符合马克思主义唯物辩证法呢？我需要学习，用马列主义毛泽东思想的基本原理来衡量我这种“生存”观点。也许会是错误的。

九月十七日

今天我们学习班上又从事革委会主任委员的揭阶级斗争学习点火报告。这鼓舞大家的斗志，增加了大家的信心，大家的精神壮志更好了，下定决心，揭开阿左旗的阶级斗争盖子。

九月十八日

我们只有一个司令部，就是以毛主席为首的无产阶级司令部，我们只有一个思想，就是毛泽东思想，我们只有一个派，就是无产阶级革命派。”

九月十九日

现在全国已经进入伟大的斗批改高潮，各地都已实现大联合，可是我们这太落后了，到理在还没有揭好阶级斗争盖子，还是两大派，无法搞斗批改。应立即赶上全国形式。

九月二十日

无产阶级革命派在毛泽东思想的红旗下联合起来！今日不联合待何吋？

九月二十一日

什么事情也是有它的阶级性。有些过去阶级论不好了。在那一阶级中它是有用的，过了那个阶级它成了旧的，害之的东西了，这就必须由出新代陈。群众组织，这派那派以前全是有它的必要性和作用，可是社会革命发展到今天则应按照新的形势要改变，不然就不但推动不了今日的运动发展，反而起阻碍作用。

九月二十二日

我现在从头通读毛主席的选集，这次通读也是个精读。我看现在的学习法仍达不到预期的目的，应该采用世界上最有效的，最费脑的方法去学习主席著作，这样才能更深刻地真实地理解毛主席的意图——即思想，真正掌握它，再加上了学习就用，就做，真正活学活用。

九月二十三日

“草原烽火”这个小说有很多问题。作者把嘎达梅林这个封建阶级的忠实地受害者，声称为“民族英雄”，又把贫苦牧民的形象进行歪曲，写得不像样，颠倒了历史的真相，又把反革命修正主义分子乌兰夫捧到天上去了。艺术上也有很多繁琐的描写，重复又重复。我看这不是什么好小说，整个主题思想也是有问题的。

九月二十四日

过去中国封建阶级有自己的“红楼梦”，资产阶级有它很多“巨著”，但由于文艺界长期以来，甚至解放以来的几十年中仍被资产阶级所霸占。所以，真正无产阶级的自己的巨著很少。像我现在读着的“草原烽火”能算得上无产阶级的吗？我看不是。这些现象在不能继续下去了，无产阶级要回到现在的面貌创作出巨著的时候了。我看那些资产阶级的“名家”，“巨著”都是吓唬人的“低质量”，没有什么了不起的，无产阶级的天才远远超过资产阶级，资产阶级所能创造出来的无产阶级一定能创造出来，资产阶级所不能创造出来的，无产阶级也能创造出来。资产阶级作家吓唬别人，吓唬自己，什么“专业”，什么“艺术修养”，什么“几年，几十年工夫”，这统统是他们那一套。无产阶级不需要这一套，可以较短的时间内，以史无前例的灵感来自己创作出光辉灿烂时代的作品。看看吧，文化大革命的胜利将会带来无数本，无产阶级的“巨著”，这将是资产阶级所梦想不到的奇迹。

九月二十五日

“卑贱者最聪敏，高贵者最愚蠢”。工农兵左右时局的伟大时代已经到来。在一切上层建筑领域内，工农兵将发挥天才，使整个历史焕然一新。那些资产阶级的吓唬人的烦琐东西统统见鬼去吧。革命自有后来人，历史自有就发展。

九月二十六日

毛主席说“高贵者最愚蠢”。这是对历史真相的无情揭露，以前历史大多是被那些愚蠢的高贵者们所统治过来的。这

些高贵的是一批蠢人，但他们装模作样。个个把自己声称“聪明”，而把人民群众说成“愚蠢”，把历史进行颠倒，把人民群众从历史舞台上赶下。这些高贵们其实是低级老虎，是一批蠢驴。他们不生产，不懂科学研究，什么知识也没有，是一批头脑空虚的大史罔。他们自称哲学学家去不懂哲学，自称为作家，却不会写文章，自称为农业专家，却不种地。他们会什么？他们只会指手画脚发号施令。他们其实什么贡献也做不出来，他们所以能出类拔萃完全是偷摘那些“卑贱者”们所劳动得来的成果。如果他们有点发明创造的话，那也是不像样的东西，尽量颠倒是非黑白，使简单的东西过于复杂的烦琐东西。“高贵者最愚蠢”，愚蠢得实在可恨，实在可恨！打倒高贵者！

九月二十七日

毛主席又说：“卑贱者最聪明”。这是对于历史真相的深刻发现，以往历史是这些卑贱者们所创造的。这些卑贱者，是真正的聪明，他们是革命的小鬼，小人物，是普通劳动者，是无名英雄，是往往受歧视，受压制的低级人才。他们没有名，没有利，没有顺利的环境条件，亲自生产，搞科学研究，有着实践经验并从得出的活的理论知识。他们不装腔作势，他们艰苦奋斗，埋头苦干，无声无息地创造发明着一切，为此贡献着自己的智慧。世界上一切事物是他们所创造出来的。他们不争名利，总是用集体的智慧来创造奇迹。这种卑贱者才是有希望的。“卑贱者最聪明”，聪明得令人佩服。解放卑贱者，卑贱者应占领全部历史舞台！

九月二十八日

在世界上的人中，有作为的是卑贱者。在人的一生中有作为的是在卑贱者阶级中。卑贱者和高贵者也是变化的，甚至有时可能相互转化。有些人当他的地位低，不出名，他得利但他是卑贱者，是小人物。这时他受压制，受歧视，他有反抗性，有奋斗性，他是新生事物，没有名了包袱。他是前进的，一句话他里富有革命性，所以是最聪明的，他是能创造发明的。但是后来地位一变，出了名了利，他就起变化，失去反抗性，奋斗性。有了包袱，甚至变成了高贵者，阔王，这是就后退不进，有人称为反动的。有些人一辈子是卑贱者，那好，他肯定一辈子是有作为的。当然也有些人开始是卑贱的，后来虽有了名利，但他不变，不脱离其他卑贱者，那他也不会变。这种例证很多。所以这是地位很重要，地位低时成好人是容易的，地位高时继续保持革命性则很不容易。

九月二十九日

“反对烦琐哲学”，这是毛主席的伟大思想之一。我学习了毛主席的这方面的文章语录之后感到在以往的历史上，在现在这世界上烦琐的东西太多了。这些烦琐哲学是阻碍历史前进的障碍物之一。烦琐哲学主要表现形式是认识物质世界的本来面目顾倒，使本来容易认识和容易改造的事物加以复杂化，从而严重地影响着人们对物质世界的认识和改造。烦琐哲学的例子太多了。简直到处都有。如：哲学本来到处都有，工农兵都很懂得辩证法。可是哲学家们给它起了很多烦琐概念，名词，使人难以理解，把它复杂化了，成为高不可攀的高峰。打乒乓球本来很容易，只要多打，细心练可以打好，可是乒乓球专家们给它总结了所谓“打法”、“要领”、“基本功”，使人一步一个动作作去练，提高高得太慢。打枪战斗本来也是很容易，只要有和敌人打得勇敢便可以拿起枪很快就打，并打好，可是军事家们弄了许多“训练方法”，把他们越练越死得快，败得惨。诸如此类不胜举。人们把这些东西认为是科学的总结，其实，是最反科学的，最多余的，使人们走多弯路，害处极大。废除的代价是不必要的。而这些都是烦琐哲学都来之于那些“高贵者”们的“理论”、“总结”、“研究”，这些家伙是见过这种手法，装模作样，吓唬别人从而进行垄断。阻碍劳动人民认识和改造物质世界。现在历史发展到今日使劳动人民登上历史舞台，以无产阶级的面貌改造世界的时候了。应该彻底破这个“烦琐哲学”的世界，按照物质世界的本来面目去认识它，改造它，加速历史发展进程。我们的天才的毛主席已经发觉到这些，已经有了全面的研究和总结，正在向这烦琐哲学的世界开战！在这方面毛主席也将会大大发展马列主义！

九月三十日

难以现象和本质，主要和次要的区别关系很大。这方面也应在哲学中加以重新研究。在这世界上生活的人往往碰到很多难以分清的问题，如，评价某一个人，他有功劳又有做坏事的地方；做一些事情似乎这样也行，那样也行；对很多事物的看法这个人说得有理，那个人说得也有理。对这些该怎么去分析呢？我看这是最需要解决主要的和次要的关系，很多时候人们以次要代替主要，只说次要来处理，不看主要方面。所以这个主要和次要处理得重要，不然这世界上事情是多方面因素组成的，复杂的，你怎么去公正地，合理地去辨别和认识呢？评价呢？现象不能代替本质，支流不能代替主流，次要不能代替主要。这方面应该加以研究。

十月一日

我们伟大的祖国，我们可爱的祖国在无产阶级的文化大革命的全面胜利中迎来了国庆十九周年。我的祖国从来没有像今天这样红光照耀，朝气蓬动，繁荣强大。她巨人般地屹立在世界的东方，成为全世界共产主义革命的根本地。她是项天立地的，在这世界上，能够战胜我社会主义祖国的敌人，近日还没有生下来，明天将来永远也不能生出来。世界革命的中心在我的祖国，因为伟大的毛泽东生在我们的祖国，她是毛泽东的祖国。毛主席掌着祖国的舵，她当然是不可战胜的，不变颜色的。生啊，一千回生在中国母亲的怀抱里，活啊，一万回活在伟大毛泽东的事业中。我骄傲，我幸运，我是伟大中华人民共和国的公民，建设者和保卫者。我是祖国的儿子和战士。

十月二日

我的年龄正在增大，我的思想正在变化，我的才能正在伸长，所以我想我的性格，我的风格也不停地，改变和转好。我发现，有些同志也偶尔给我建议。我现在正在向一种很不好性格，风格滑着，我总是以学者，文人的姿态出现在别人面前，我总是在别人面前夸夸其谈，炫耀自己的一知半解的一点哲学、文学知识，有时甚至随便说话，我总是爱挑剔别人的短处来作讽刺。我是在大喊大叫，大吵大闹……这些不是一个革命者的风格，不是一个有出息的人的性格。毛主席语重心长地指出：“真正有希望的是想问题的人，不是出风头的人”，我离毛主席所要求的“一个有道德人”，还差一万八千里。革命也得革命自己的命，学习马列主义毛泽东思想也得改造自己，改造自己的性格，使自己的个性无产阶级化，共产主义化，这是改造自己的一个重要方面，性格，风格，也是一个人的世界观的表现形式。我以后应该特别这一点，改造自己的性格，养成一种良好的性格。

十月三日

我们的一生，像一只雄鹰一样，从这山顶飞向那山顶，飞来飞去，按照历史的历程，适应着祖国的需要，响应着毛主席的召唤。去那里，干什么都行。一个人不一定一辈子死守一个阵地，更不一定非要在自己生长的摇篮（指家乡）里躺着一动。祖国的每一寸土地都能吸引儿女的血汗，都能够埋好儿女的忠骨。——当我给同学图画写信时，对她的“非调回家乡工作不可”的想法发表了以上看法。

十月四日

对我们（指在这艰苦的巴盟工作的东北籍同志们）来说，我们真正的革命人生道路并不在于山清水秀的东北，而在于山穷水尽的大西北。因为党和人民需要我们在哪里劳动，斗争，革命的需要在哪里。我们应该为祖国的这块山河的革命和建设献出自己的青春和一生。

十月五日

毛主席的最新指示又发表了，毛主席他老人家号召我们机关干部“下放劳动”。敬爱的毛主席阿，您是高瞻远瞩，历史新纪元的天才，您是真正的劳动大众，劳动人民的心人，您是世界上最热爱和重视劳动的人。您天才地发现了劳动的伟大意义，您又教导我们去参加劳动，去和劳动人民同甘共苦，您给我们指出了真正的人生道路——共产主义道路。我们是国家的干部，是劳动人民的服务员，是您的战士。我们一切服从您老人家，您一挥手，我们就向前冲。您放心吧，我们决不辜负您的期望，我向您宣誓：遵照您的教导，到那广阔的农村天地里……，

劳动啊，体力劳动！它是创造人类的人。人间一切都要生存，都要吃饭，穿衣，那每个人就必须劳动，不然你就是剥削别人。不管您是什么工呀，区别呀，反正这就是剥削与舍的尺度。

十月六日

身体这东西，稍不注意就会受损伤，得病，对己对革命都带来麻烦和损失。这几天我感冒得很厉害，想学习也学习不了，真难受。以前我想，病了也好嘛，躺在床上，好好学习，可是这是笑话。一病，可不好学习了。所以保养身体，锻炼

身体很重要。我想，我一天在办公室里办公，早晚还坐在桌子旁自学，一天到晚见不上阳光，像个鬼一样早晚要得病。要下去劳动就好了，到农村，吸取新鲜空气见到阳光，那对身体多好啊！白天劳动，夜间学习，真能自己念好。

十月七日

共产主义新人正同毛主席说的“能文能武”“务工农”的全面发展的人才。这才是我们的奋斗目标。这里劳动是一个很重要的项目之一。

十月八日

以“分工不同”来死守脑力劳动的岗位，不去参加体力劳动，这是一种根本的错误。这就意味着靠别人来养活自己，这是地地道道的寄生虫生活，无论如何这就是剥削别人。不论分到什么工作，必须有一份体力劳动，在一切可能的条件下参加体力劳动，这才是脱离那种一切形式的剥削生活。我们过去一年四季在机关里办公，名义上是“为人民而办公”，弄文件，其实这种完全脱离体力劳动的办公，就是一种剥削生活。无论如何这里没有任何理由说成是不剥削。

十月九日

我们下放劳动以后，以边参加劳动和工农结合，进行实际学习和锻炼，一边再坚持业余学习，艰苦钻研，学习毛主席著作和其他应学的各种知识，把学到的东西用到实际中，把实际中得到的时间经验又拿到学习中加以概括，总结，那么这就了不起了。这样保证能学好、用好，定能真正聪明起来，成为真正有利于人民的人。生命和智慧才能得到新生。所以，下放后的艰苦地坚持业余学习是很重要的。不然，从一个极端走到另一个极端，把学习放弃了。

十月十日

以往有很多人一看小说总是被作者的思想和艺术魅力感染得简直失去自己的一切主观能动性，于是失去判断力，不分是非，不求真假，过于相信作者，盲目激动，不知不觉就上当。其实，这是个幼稚可笑的。我去过也是这样，真正懂得辩证法的人，不会是这样，因为总是对作者和作品的一章一节，问一个为什么，想象是否有道理，总是不失去批判和分析，这样可以取精去糟。前一种人是不爱读书的人，后一种人才是会读书的人。

十月十一日

我过去读过“茫茫的草原”这个小说。这几天再次谈起来和以前的感觉大不相同了，我读着它，怀疑着它，分析着它，批判着它，我有了分析判断力，所以心中物有数，不盲目感动，不上作者得当。他描写得再精妙，说得再好听，我总是看着它那本质，能发现它的毒素，这是个彻头彻尾的大毒草。

十月十二日

不破不立。破日的就是革命。一切旧的东西，已经失去历史使命的灭亡东西都应该破。一些旧的东西都要破，破中有立。在破中立起的就是有生命的新生事物。这是革命。

（今天和离别六年的老乡——海表同志见到了）

十月十三日

创造力很重要，凡是在破中创造出来的东西都具有生命力，它是新生事物，符合事物生存和发展规律。所以创造是很可贵的。对一切失去历史使命的旧事物，不能留恋它，应该毫不怜惜地抛弃它破它，让它见鬼去吧，用新生的，革命的东西来代替它。能创造出这种新生的东西就是变革，就是革命。

十月十四日

“人民，只有人民，才是创造世界历史的动力”。（毛主席语录）

十月十五日

毛主席关于整党问题的两条最新指示发表了。毛主席以极其深刻的辩证法，提出了“吐故纳新”的伟大思想。毛主席的思想正以空前的速度向前发展着，飞跃着，马列主义正在日新月异。毛主席啊，当您听到您的最新指示，如同见到了您一样，如果听到了您洪亮的声音一样……。

十月十六日

“一个人有动脉、静脉，通过心脏进行血液循环，通过肺进行呼吸，呼出二氧化碳，吸进新鲜空气，这就是吐故纳新。一个无产阶级的党也要吐故纳新，才能去运动。不清除废料，不吸收新鲜血液，党就没有朝气。”——毛泽东

十月十七日

“我们的权力是谁给的？是工人阶级给的，是贫下中农给的，是占人口百分之九十以上的广大劳动群众给的。我们代表了无产阶级，代表了人民群众，打倒了人民的敌人，人民就拥护我们。共产党基本的一条，就是直接依靠广大革命人民群众。”——毛泽东

十月十八日

毛主席指示我照办，毛主席号召我响应！

十月十九日

我应该力争成为一个无私无畏的人，成为一个无尤无憾的人。我个人的一切失败，困难，损失都是小事，都是渺小的，不在眼里的。我应为革命的每一个胜利而欢笑，为历史的每一步前进而欢笑，为人民的每一个利益而欢笑。我是革命的乐观主义者，而不是个人的悲观者。代替我一切愁怨的是革命的快乐。在我稚气的脸，不能有一点点点忧愁的阴影。

十月二十日

如果说爱情是严肃的，那么做一个爱情的选择者更不容易。一个人有一个人的生活观和爱情观，所以每个人都有不同的选择和追求，一个革命战士的一切服从他的革命理想，爱情同样不能离开这种理想。选择一个什么样的爱情和终身伴侣，是一生中怎样做人，怎样革命，怎样为人民服务，怎样为理想而奋斗的问题，对此不能有半点含糊和低級趣味。如果把爱情只当作满足某个人的低級趣味的玩意，那将是腐朽而垂死的剥削阶级的庸人哲学和肮脏目的。

十月二十一日

我们这一生只有一条革命路，耐狂风出浪打。在风浪中前进，在风浪中磨练，在风浪中成长。

十月二十二日

我要下决心，起码把自己的前半生献给这大西北，这才算得上革命志气。我非常热爱这地方。因为革命需要我在这里，祖国的需要在这里，党的分配在这里。我和我优美的诗歌将在它们需要的地方毫无报酬地服务下去，生存下去，完成自己渺小的——如果大海里的一滴水般的——历史使命。

十月二十三日

参加劳动，与工农结合——这是今日知识分子的唯一出路，是时代对知识分子的要求，是毛主席对知识分子指出的光明大道。这是二十世纪六十年代一个伟大的变革。（今天下初雪）

十月二十四日

我下定决心坚决下放劳动，以真正实现毛主席的号召，寻找自我改造，自我革命的道路。除了下放劳动，再没有比这高尚而光荣的了。我要下放劳动，我要下放劳动。（今日我机关前调去的刘子斌同志又调回来了，我有很多地方向他学习。）

十月二十五日

毛主席很提倡“大方向”是衡量，评价一切事情的标准尺。我们评价一个人，评价一件事，都要看其大方向。看它大方向正确不正确。大方向重要的，其他一切都是次要的。如果大方向符合历史发展规律，符合人民群众的利益，符合马列主义毛泽东思想，那它就是革命的。这世界上很多东西都是好与坏，正确与错误两个对立面混在一起。所以在这种千头万绪中我们就要其大方向。“大方向”就是它的主流和本质。只要大方向正确，那么其他一些不正确的方面都是可原谅的。如果大方向错了，那就一切都错了。例如，通常的群众运动都是大方向正确的，所以它是革命的而同时不可避免地存在一些缺点，对一个人也应该这样看。

十月二十六日

这几天我读了小说“鲁宾逊漂流记”。批判地看，这小说当然是有很多问题，因为写的作者和历史时代不能和现在伟大时代相比嘛。但是其中有一点可以引起我们的兴趣，鲁宾逊这个人简直成了劳动的化身，他一个人在孤岛上，生存二

十五年全靠自己的双手。他那劳动的勤劳性，创造性，快乐和信心值得我们学习。当然我不能设想他那样一个人在孤岛上生活，“脱离”世界，同时他的劳动完全是为了个人生存。我们今天的劳动则不是为了个人，而是为了人民。为人民如同那同样的劳动，那是再光荣不过的了。劳动是如此重要和有意义。

十月二十七日

劳动创造了世界，创造了人类，没有劳动岂能有今日的世界。所以劳动是人类这个高级动物的最大特点之一，也是本质之一。劳动光荣就是光荣在这里。

十月二十八日

事物总是波浪式地前进和发展的。革命的运动的也是这样，时而顺利，时而不顺利。一切事物和事情都要不断起变化，向高级的阶级发展和前进，但就在这发展及前进中也是波浪式的。好与坏，顺利和不顺利，如此等等，凡是对立的面面总是经历着如此起伏地波浪式的过程和到统一。人的一生也是这样变化的，也是波浪式地变化着，例如知识的增长，思想的发展，工作的进展，斗争的前进，生活条件等等都是不断变化着，起着波浪。

十月二十九日

一般看来，在事务的变化和运动中新的总比旧的好。后来居上的总比前头过去的强。所以我们说现在比过去好，将来必定也比现在好。我们马克思主义者就是鄙视过去，迷信将来，推翻老古董。我们总是展望着未来，一切从头来着想，以未来为自己的利益，欢乐和骄傲。我们对自己的过去，对任何人和事务的过去都不迷信，不为那些过去所着想。对我们来说一切都在未来。看一件事物，看一个人，看一切都要着重看它的将来，看它的前途如何，都要向一个“将来会怎么样”，在这个前提下决定自己所态度。

十月三十日

毛主席说学问少的人打倒学问多的人，青年人要打倒老年人。又说自古以来很多发现创新，发明多是由青年人干出来的。这是伟大的发现。实际生活中就是这样，一切发明创造都是客观实际在人的头脑中的反映和“自由化”，所以客观事物及其规律常在人的头脑里出现和反映，只是人们不易于发觉这种情形，或更重的发觉不注意，不能让它留下来，而让它过去了。人在生活中，特别是在单纯的青少年，常常有一些东西像闪电一样地出现在脑子里。其中有多种想象和联想，道理等东西，如同辩证法法则在马克思年代时就闪现在他的脑海一样。所以人们能够抓住这种闪现出的东西，加以分析，综和就成为创造，发明。在无学问或学得少的人只要能抓住这种闪现的反映就能创造“奇迹”。历来很多东西，科学家总说不上自己研究出来的，其实不然，所谓发明创造的一切之原理都是那事物本身所固有的，既然固有的就能去人们头脑中不断反映着，科学家们只不过是及时地把他这种反映抓住并概括了罢了。所以这种闪现是物质世界在人们头脑中反映的常见的和特殊的，而且是最重要的一种形式。必须要抓住它。

十月三十一日

我读外国文学和其他作品也有一种好处，它译出来的语句常让人感到不顺，但是这没办法，那里由它本民族的语言规律所造成的。外语的语法可能接近于蒙语，比起汉语的话，所以外文的语句用法也接近于蒙文，我要读外文可以有有利于我的创作。因为我所要从事的汉文创作，也需要某种程度上的这种汉译外文的语句。

十一月一日

首都北京传喜讯，千里草原格外欢。党的第八届扩大的十二次会议的公报广播以后，把我们兴奋极了。公报句句悦耳，公报字字真理，说我们心里亮堂堂，它传达着伟大领袖毛主席的声音。今晚我镇革命群众连夜开了庆祝大会。

十一月二日

我们的党是伟大的党，光荣的党，正确的党，我们的党是伟大毛泽东的党，是伟大中国的党，是七亿人民的党，我们的党通过史无前例的文化大革命的疾风暴雨，显得更加伟大更加英明了。

十一月三日

“唱支山歌给党听，我把党来比母亲，母亲只生了我的身，党的光辉照我心……”

十一月四日

我认为哲学和文学这两门科学虽有区别，但即使在形式上也不是势不两立的。各阶级的文学家在文学里所表达的就是那个阶级的哲学思想，哲学史可以通过文学表现的，文学作品应通过形象来表达哲学思想，从而充分起到意识形态中的宣传，感染，做言论的作用。我想我在自己的文学生涯中应在这方面努力，着重探索这类作品，如哲理诗那样的种类。

十一月五日

以往一些文学家、作家，大都把自己的精力浪费在那些山水鸟花的描写和爱情以及人的生活琐碎细节的写作上，对社会发展，社会革命未起到什么作用，所以写出来的东西如同他自己的一杯烈酒那样，只是一时的自我表心而已，只是一小撮非劳动者剥削生活者的环节而已。而一些有出息的人们，却好写斗争，写劳动，唤起劳动者进行社会革命，提倡“斗争的火花”，它应有的作用。前者是无用的，后者才是有用的。文学也应成为人类认识世界，改造世界的工具。它的目的仅仅在这里，如同哲学一样。

十一月六日

人类对物质世界的认识运动上没有完全，物质世界在时间和空间上是无限的，而我们的认识也将是无限的。自然科学已有了达尔文的进化论，社会科学则有马克思主义的辩证唯物论，这都是到今日人类头脑所思考出来的最崇高和最有价值的科学，但是人类对社会的，世界的发展并没有到头。我们可以大胆设想将来会出现比唯物辩证法更高级的科学，它将补充和发展唯物辩证法。我们的认识不可能永远在唯物辩证法的阶段。

十一月七日

今天是伟大十月社会主义革命五十周年。我们同伟大的苏联革命人民和真正的苏联共产党人一道怀念着伟大的列宁和斯大林。可恨的是今日的苏修叛徒集团勃列日涅夫，柯西金之流堕落成了社会帝国主义，成立了全世界革命人民的公敌。但苏联人民总是要革命的，今日活跃在苏联的斯大林同志则是这个星星之火，它必将会点燃全苏联！伟大的苏联十月社会主义革命万岁！

十一月八日

苏联斯大林时代的革命诗人伊萨克夫斯基说过，诗的“绝密”是在于独创性。我认为这种“绝密”是在其他各种科学中普遍存在的。一切科学事业的绝密就在于独创性。独创出来的就是新鲜的，发展的东西，但是这种独创不是人们凭主观想出来的。它同样是客观世界在人们头脑中的新的前所未出现的反映。这种反映的表现于概括就是独创。

十一月九日

我是生在地主阶级家庭，但是我并非地主阶级的儿子。而是个地主阶级的死对头。我自愿贫困，献身于无产阶级，为全世界受苦的穷人而战斗。我为了致力于这个目的，一生乐于忍受最艰难的劳苦，如同无产阶级革命导师马克思那般的贫困生活和毛主席那般的艰苦奋斗。面对全世界大多数还在受苦受难的无产者和穷苦人民的贫困，而面对着还在一穷二白的祖国，我这一生中不需要什么享受物质生活中美好东西，只需要贫困，只需要艰苦，用我的贫困和艰苦去为那些受苦人民造福。

十一月十日

今天这里的革命群众组织——“揪乌站”揪斗了藏在自己的组织里的可恶的苏修特务任功铎，霍薇夫。这两个家伙真可恨！他们隐瞒十多年，一直为赫鲁晓夫修正主义集团效劳，背叛自己的伟大的社会主义祖国，特别是文化大革命以来假装造反派，毒害不少群众。这一类特务，是恶毒到极点的蠢货。他们反动透骨，敢于在我们革命的国土上搞反革命活动。对这类家伙不可饶恕，要揪出他们，要斗争他们，要专政他们，要法办他们，不镇压反革命就没有革命人民的革命！

十一月十一日

毛主席心胸开阔如高天阔地一般，他相信占全世界总人口总数的90%以上的人民总是要革命。但是我们这里有些人却不相信群众，只相信他渺小的人，把揪乌站这个革命群众组织的上千名群众和那个坏人混为一谈。统统进行打击和镇压，

实在很不高明。这种把群众上千名的打成反革命的做法——因为把这组织组成的反动组织——根本不符合毛泽东的革命路线，他们这种做法是国民党的做法，令人愤慨。谁镇压群众运动，谁没好下场，人民群众的绝大多数还是要革命的，总是跟毛主席走的。而那些不相信群众，把自己推到群众运动的对立面所谓的“革命好干部”的人，将会无情地历史辩证法所判决，被群众所抛弃。毛泽东思想的真理永远存在，毛泽东思想武装起来的群众总是要革命的，总要胜利的。

十一月十二日

群众是真正的英雄，群众是真正的革命者。一小撮伪装得巧妙的阶级敌人有时也可能把群众蒙蔽几天，但是归根到底他还是闹不过群众，很快会被那些群众所发发现和揪出。群众不可能明知故人去去保他。这是历史唯物主义，这是马列主义群众观点的基本点。毛主席就最相信群众。

十一月十三日

如果说革命是件不容易的事情，那么做一个革命者更不容易。（今天收到同学图雅寄来的《伟大的实践》一书，并获额尔德木特古斯已在伊盟下放劳动的喜悦，我要向他祝贺，因为他从呼市高楼下放到黄河岸上的农村；这时二十世纪六十年代知识分子必经之路，毛主席指给的正确的人生大道。他正在这个光明大道上高举语录前进啊！）

十一月十四日

我读了“林彪同志光辉的历程”一书后非常感动，我第一次对林副主席的生命有也系统的认识，从而自然而然地认识到他的伟大，更加激起了我对林副主席高度敬佩和爱戴的心情。

十一月十五日

我们机关的一个同志，刘子斌看了《拿破仑传》一书后，在给我介绍拿破仑如何如何伟大，对此我同意的许多看法和评价，我虽然还没看这本书，但我和他争论不休，我不同意他对拿破仑的这种评价。由此我认为：我们对于天才必须加以阶级分析，对于伟大也应加以阶级分析，拿破仑的伟大是资产阶级的伟大，而这种资产阶级伟大，对我们今日的无产阶级来说恰恰是渺小的。所以作为资产阶级伟大人物的拿破仑在我们无产阶级者的眼里就是一钱不值的。我们是蔑视他的。当然，我们不可否认拿破仑在资产阶级推翻资产阶级的变革中起了不朽的作用，这便是他对发展中国历史的功绩，如果说他是伟大，就伟大在这个历史阶段中，而不是在今天这历史阶段中。所以我们不能迷信拿破仑，如果迷信过去那将是对发展着的历史的犯罪。我们不能把资产阶级的伟大人物同无产阶级的伟大人物相提并论。真正的伟大是无产阶级的伟大，是历史发展到今天的社会主义时代之伟大也！其他如“英雄豪杰”等也是这样有阶级性的。资产阶级的英雄对于无产阶级来说不是英雄，而是狗熊。我认为只有这样才符合马列主义毛泽东思想得历史唯物主义。

十一月十六日

无论是什么样的英雄人物，有学问有贡献的人——只要你是革命者，是个共产主义者，那么你毫无疑问地把自己当成几十亿个人民的普通一员，而不能把自己当成高于人民的“特殊材料”。你应该把自己的天才当作是人民的财富，把自己有用的时刻当作牺牲品和消费品，为革命为人民贡献着它，而不能把自己的“特殊材料”怜惜又怜惜，娇气又娇气。

我们的伟大导师毛主席，有着空前的伟大天才，而他老人家总是把自己看成群众的小学生，当成普通一兵，和人民一道去苦难去甘苦，过着朴素的生活，显示着“平凡”的榜样。这是一切革命者应该学习的典范。

十一月十七日

如果说革命是件不容易的事情，那么做一个革命者更是不容易。

十一月十八日

我要干革命，要从事文学劳动，我时刻不能离开我所投奔的无产阶级和文学艺术的唯一的源泉——无产阶级的生活、斗争。

十一月十九日

我毫不隐瞒自己是有点才能，也相信自己如能努力，也能成为一个对革命对人民有所贡献的人，这里主要的想法是我目前对马列主义毛泽东思想的理解，对社会生活的哲学观察，以及从小以来对文学的研究。但既然是这样，我丝毫也不追求，永远也不去追求什么诗人的桂冠，学者的桂冠，著作家的桂冠，这些名利之类的东西我不感兴趣。我只希望把我的才能当作劳动的工具和斗争的武器，用来所创造的财富及得来的硕果献给我的所投奔的无产阶级和一切受苦人类的解放事业。

十一月二十日

这几天我看了“毛主席的革命故事”这一本书，收获很大，我对伟大导师的生平更加了解了，这对我是有着无限价值的，我了解毛主席的人生，可以帮助于学习他的伟大思想，有助于将来对他老人家的歌颂——因为我现在就计划在这一生中尽力写出歌颂他老人家的伟大生平和事业的诗。同时毛主席在青年时代的实践，一个个都是有现实性，我们可以做榜样的。如毛主席那时曾进行社会调查，我们今天也可以进行嘛，不是也可以进行民歌文学调查吗？我这样仿效是大有好处的。

十一月二十一日

巴盟军分区，巴盟革委会来三条，对这里的革命群众组织的广播站主要进行了查封。十天以前我旗的个别领导人尽凭自己的怀疑，对一个革命群众组织的广播站进行了查封，他不请示上级革命委员会和军分区，很随便动用专政工具，进行了极其错误的的事情。如今上级来指示纠正了这个错误，同时解放了受镇压的群众。

十一月二十二日

客观规律不是以人们的意志为转移的。据我们所得到的反映，通常人们的愿望大多是和结果相反，例如本来向好处着想，结果总是走到坏处等等。这是为什么呢？这里是否有一种精神起很大作用的缘故呢？或者是因为人脑中反映到客观世界，也如同阳光照射到物体上所出现的反射性一样，人的脑子也有反射性呢？因为这样才出现主管对客观的相反反映呢？总是走向自己的反面呢？反正这有个道理。但这种道理一定要有唯物主义来寻找和解释。不能以唯心主义的绝对观念来解释，更不能错误地认为这是因为唯心主义和唯心主义中间存在的一种东西。

十一月二十三日

我讲历史发展到今日，社会发展至今日，文学一定出现一个大革命，文学大革命将是同政治的全面接近，同阶级斗争的全面接近，同哲学的融合，将是从事文学家的小屋中被解放出来这两点上。

十一月二十四日

一个革命者必须事业心强，就是一切为着自己的事业，他的生活，他的工作，他的爱情，他的生命，他的智慧，他的一切的一切都是为了自己的事业。今天，我们的事业做什么呢？社会理想就是共产主义，就是解放全人类，就是马恩列斯毛的伟大事业，我们的一切都是为了这个伟大的事业。具体到怎样为这个伟大事业服务，那就出现个人的职业之理想，个人的所能做到的和最能做到的各种不同岗位和职业的贡献。这一点，我们应根据革命之需要，人民给予自己的义务和自己的特长，爱好等等诸方面来选定，把自己的社会理想融化在这里，并为之奋斗终身，所谓事业心就是指的这些。

十一月二十五日

我可爱的祖国——今日之中国可谓兴旺极了。这种兴旺不仅是兵力强而耐用是兴旺。兴旺在于全国人民思想界的变化进步和提高。我国七亿革命人民差不多都懂得和掌握了当代人类最可宝贵的先进思想——今日的马列主义——毛泽东思想。这很了不起。他们都以毛泽东思想来认识和改造这个国家的世界，以毛泽东思想建设着自己的国家，以毛泽东思想改变着自己的精神面貌和社会面貌，组织和安排自己的生活和自己的一切。这样出现了古今中外前所未有的先进思想的普及，变成无边物质力量，创造着多种奇迹，带来了兴旺。

十一月二十六日

不少人只怕自己肚子饿，而不怕脑子饿。其实，对于一个真正有作为的人来说肚子饿是没什么的，是有益的，是甘心情愿的，然而脑子饿则是痛苦不堪的。我们真要想致力于人类革命，应受着挨饿，受着贫困，去艰苦奋斗。用肚子上的饿来换取脑子的满饱。我们应不断将时代，人类之最新进步的新思想，最宝贵精神财富——即马列主义毛泽东思想和一切有利于人类的智慧——即多种阶级斗争，生产斗争，科学实践的知识装进自己的脑子里，充实自己的大脑，使它为人类的最早

命最壮丽的事业服务。只有这样才能真成为一个革命者。

十一月二十七日
热爱毛主席的伟大，崇拜毛主席的天才；信仰毛主席的主义，终于毛主席的事业，遵循毛主席的教导（指导），效仿毛主席的实践，实现毛主席的期望。

十一月二十八日
革命是件不容易的事情，然而革命也是历史的最好的见证人。

十一月二十九日
今天我写了一张大字报，深受同志的欢迎。我想将我的文学才能为阶级斗争服务是最大的光荣和义务。

十一月三十日
革委会召开大会，宣布将这里原旗委副书记——图布交给群众斗，表态打倒。这使我们一直和图贼血战到底的造反派战士欢呼 and 歌唱。历史已经宣判了这个乌兰夫死党分子，反革命修正主义分子，民族分裂主义分子的死刑。历史的辩证法是多么无情啊！打倒图布！

十二月一日
阶级斗争是以它固有的规律所发展的，不以人们的意志为转移。

十二月二日
历史凡属于反动的东西，反革命人物都要垮台的，都要被人民群众所打倒的，人为地维持不垮是不可能的。

十二月三日
在对敌斗争中保皇派的角色是最可耻的。

十二月四日
人民是革命的推动力，只能以人民群众的觉悟和斗争来推动革命，有些人都想以愚民政策和高压政策来迫使群众服从自己的观点，这是徒劳的，本身就是愚蠢的。这种人迟早会犯错误，被人民群众所抛弃。

十二月五日
群众向革委会报喜，这是100%的革命行动，而有些水平“高”的伪君子却怕群众怕得要命。他以为群众是黄鼠狼，自己是个鸡，群众要吃他，结果做出了令人可笑的蠢事——不接受群众的报喜。这是严重的违背毛主席革命路线的错误做法。

十二月六日
“群众才是真正的英雄，而我们自己则往往是幼稚可笑的。”毛主席的群众观点是多么伟大，毛主席和群众心连心，毛主席总是亲自到群众中去。毛主席是世界上第一个最最相信群众的伟人。我们应该向自己的领袖学习，象他老人家那样相信群众。

十二月七日
干部和群众的关系是鱼和水的关系。鱼儿离开水就会干干地死去，干部如果脱离了群众，站在群众的对立面，那就一事无成，被群众抛弃。

十二月八日
把路线斗争交给群众是对群众的最大信任，把路线斗争关在门里是对群众的不信任，是对毛主席革命路线的违背。

十二月九日
内蒙古工宣队先遣队今日来到古城，受到我们的热烈欢迎。在这挖肃斗争一概受干扰，挖肃派一直受压制的日子里我们多么盼望工宣队的来临啊！工宣队来了，我们就放心了。在工宣队的支持下我们的挖肃斗争一定胜利，斗批改一定搞好。

十二月十日
当我在街上碰到工宣队人员的时候，逢到他们的红缨枪的时候，脑子里翻起了阶级感情的波浪；我向你们致敬，亲爱的工人同志们！

十二月十一日
军委会召开了大型宣判大会，宣判了杨立中等一批反革命分子和刑事犯罪分子。无产阶级专政好，群众专政好！

十二月十二日
我认为任何一门科学的发展和生命力，不在于它的念头多和复杂化，神秘化，而应该在于它的念出来简单化，普及化，即更多的人民群众掌握它，在人类生活中运用它。例如，哲学这门科学，它的概念应该更简单，更接近物质世界。它应该让哲学家的书房分离出来，让群众普遍地掌握它，运用它。这才是哲学的发展和生命力。文学也是这样，要发展文学，就不应该深入化，复杂化，神秘化出去去探讨，而应该从普及化，简单化，作用化去探讨。毛主席的文学思想的主要方面之一就是文学的“普及”。

十二月十三日
物质世界的本来面目，它的规律等不一定那么神秘，只是人们认识它的时候，解释它的时候，把它神秘化了，这主要是烦琐哲学的罪过。

十二月十四日
打倒烦琐哲学，按照物质世界的本来面目去更快更好地认识它，利用它。

十二月十五日
塞外古城锣鼓喧天，万众欢腾迎接来。内蒙工人毛泽东思想宣传队乌达指挥部第十大队，今天雄赳赳气昂昂地进驻我旗，革命群众无不欢欣鼓舞。特别是工宣队在欢迎大会上的讲话使我们感动的热泪满眶，一再高呼毛主席万岁，万岁，万万岁！工宣队啊，一代新红旗帜鲜明，身穿阶级敌人，支持挖肃派，支持挖肃派，你们说出了阿左旗一切要革命的人民的的心里话。我写了一篇广播稿来迎接他们。

十二月十六日
工宣队的宣传车在街上摇晃着，我们跟在后面兴高采烈地听着。听吧，工宣队在喊：“谁把矛头对准革命群众就打倒谁”……这是多么不平常的声音啊！我们记得我们伟大领袖毛主席喊过：“人民万岁”，“同志们万岁”的伟大口号。今天我们听到派来的工宣队在喊“谁把矛头对准革命群众就打倒谁”，革命群众啊，忠于毛主席的90%以上的要革命的群众，阶级敌人本是镇压革命群众，而工宣队有这样支持，爱护革命群众。对群众和群众运动的态度是毛主席的革命路线和反动路线的根本区别。工宣队的这个响亮的口号是说出了毛主席革命路线的根本精神实质。

十二月十七日
工宣队来了，他宣判了阿左旗的乌兰夫的死党分子，巴图巴根黑线人物的死刑，它驱散了在阿左旗上空的乌兰夫残余云雾，它解放了长期受压制的无限忠于毛主席的挖肃派革命群众。工宣队好，工宣队就是好，他们不愧为毛主席的好工人！

十二月十八日
手挥红书迎亲人，向工宣队致敬，支持工宣队的一切革命行动，服从工宣队的正确领导！我们机关两派实现了大联合，以实际行动支持工宣队！

十二月十九日
工宣队今天召开了“落实毛主席一系列最新指示的全新有线广播大会”。会上发布了工宣队第一号公告，宣布阿左旗文化革命已经领导权归工宣队。工宣队这个权夺得对，夺得好！一小撮阶级敌人打着红旗反红旗，混进我们新生的红色政权——革委会，找到护身符，兴风作浪，镇压群众镇压革命。革命的根本目的是政权问题，我旗两年多的你死我活的斗争的要点就是一个“权”字。今天工宣队夺了大权，一个好一万个好！

十二月二十日
昨天宣布后，工宣队一分队进驻了我们原旗人员机关，上午召开革命干部大会。会上同志们热烈发言，得到工宣队的坚强支持。过去被一小撮阶级敌人欺负受蒙蔽的同志们也纷纷站起来造反了，他们说出了真心话，让我很感动。我作为一个挖肃派战士现在应该要斗争，消除资产阶级派性，拥护革命的大联合，团结对敌！

十二月二十一日

工宣队好，工宣队好，工宣队支左不支派！

十二月二十二日

我接受工宣队的领导，在工宣队的领导下，积极参加挖肃斗争，参加斗批改，改造思想，搞好再教育。

十二月二十三日

晚上集体看了批判影片——《刘修访问印尼》。对刘少奇的资产阶级政客形象和腐朽低级的内心世界进一步看透。对他更加憎恨。刘修太不像话了，这家伙被人民所打倒是理所当然的，打倒刘少奇！

十二月二十四日

在内蒙古地区正在掀起挖内人党及其变种组织的红色风暴。内人党以及变种组织是乌兰夫，哈丰阿之流为了投修叛国，搞内外蒙合并，所以组织起来的反动透顶的反革命集团。这一批反革命分子是我区各族人民的不共戴天的敌人。文化革命中必须要挖掉他们的根子。在阿左旗也有这些敌人，我们正在搞挖肃，挖这种地下秘密反动党。我要积极参加这次打倒叛国分子坚决斗争，用自己的鲜血和生命保卫伟大社会主义祖国的北部边疆，保卫毛主席。

十二月二十五日

“民族斗争说到底就是一个阶级斗争问题”。我们应该有阶级的头脑，应该成为无产阶级的战士，而不能成为民族主义者。从长远的观点来看，从历史发展来看，只有阶级的解放才是真正的解放。阶级敌人总是利用民族问题来煽动人们搞反革命勾当，一切少数民族的同志们更应该提高警惕。我们要吃共产主义的饭，吃无产阶级的饭，而不吃民族主义的饭。那种只想民族，民族，那是不符合历史发展，实际上是反动的思想。我这个人就不想什么民族不民族的，我只想无产阶级的劳苦大众，想念世界，全人类的解放。当然，我也热爱自己的中华民族，热爱中华民族中的一个——蒙古民族，但这种热爱的基础首先是站在阶级观点上。我热爱的是蒙古民族中的劳动大众，被压迫阶级，我憎恨的是蒙古民族中的反动阶级，压迫阶级。

打倒民族主义！

打倒民族主义！

十二月二十六日

今天是我们伟大领袖毛主席七十五寿辰。我无比想念着毛主席！晚上我们开了座谈会，会上我激动地发了言，表示一輩子忠于毛主席的决心。

十二月二十七日

忠于毛主席，不管如何要忠于毛主席。假如我在一生中犯什么错误，对毛主席他老人家有了罪，那么我还是红心不变，忠于毛主席。错误是错误的问题是归于个人，个人应受错误的恶果及处理，但是错误代替不了我对毛主席的一颗红心，哪怕是我身败名裂，忠于毛主席这一点是毫不动摇的。掏尽红心为毛主席，把一切献给毛主席的伟大事业，这就是我的忠心。如果我对人民做出点滴贡献，那是不能归功于自己，首先归功于毛主席思想，归功于毛主席。

十二月二十八日

我旗“群专”成立了，今天发布通告对拉嘛舍哈，图布，蔡楚鲁等一批内人党魁进行了无产阶级专政。这个政专得好，就是好，把这些叛国投敌分子统统挖出来，保卫我们祖国的北部边疆，保卫无产阶级江山！

十二月二十九日

我国又成功地爆炸了一颗氢弹，这是毛泽东思想的又一伟大胜利。我强盛祖国啊，像巨人般地屹立在世界的东方，她压倒帝修反，她是全世界反帝反修战斗根据地和后方。我强盛的祖国万岁！

十二月三十日

我作了一场最有意义的梦：我见到了毛主席，毛主席接见了我们几个同志。毛主席那亲切，慈祥的面容和谈话，毛主席送给我们吃的菠菜，毛主席那艰苦的生活，一一出现在梦中……。毛主席啊，毛主席，我在梦中这样亲切的看到您这是多么幸福啊！毛主席啊，毛主席，您的一名普通战士——我日夜想念着您！

十二月三十一日

毛主席淳淳教导我们要成为一个脱离低级趣味的人。要成为这样一个人，必须正确对待爱情，这是其中的重要环节之一。爱情必须和伟大理想连接在一起，必须理解，从自私自利的享乐中解放出来，主要的是为革命服务。爱情不能离开革命理想。我应该正确对待她，正确处理她，正确发展她。

马克思夫妇，在一生中同甘共苦共患难为创立共产主义而奋斗。毛主席爱人杨开慧同志为革命壮烈牺牲。导师们的这一切伟大和崇高的形象与典范应值得我们学习和效仿。只有这样，才是真正有意义的。今天我初次和斯同志谈话之际想到了以上这些。

一九六八年过去了，它已经化进苍松的年轮。（1968年日记结束）